

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成22年4月1日  
(第47期) 至 平成23年3月31日

**株式会社 ケー・エフ・シー**

大阪市北区西天満3丁目2番17号

(E02876)

# 目 次

頁

表紙	
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	4
4. 関係会社の状況	5
5. 従業員の状況	5
第2 事業の状況	6
1. 業績等の概要	6
2. 受注工事高、完成工事高、繰越工事高、施工高、手持工事高、商品仕入及び販売の状況	7
3. 対処すべき課題	10
4. 事業等のリスク	11
5. 経営上の重要な契約等	11
6. 研究開発活動	12
7. 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	13
第3 設備の状況	14
1. 設備投資等の概要	14
2. 主要な設備の状況	14
3. 設備の新設、除却等の計画	15
第4 提出会社の状況	16
1. 株式等の状況	16
(1) 株式の総数等	16
(2) 新株予約権等の状況	16
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	16
(4) ライツプランの内容	16
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	16
(6) 所有者別状況	16
(7) 大株主の状況	17
(8) 議決権の状況	17
(9) ストックオプション制度の内容	17
2. 自己株式の取得等の状況	18
3. 配当政策	19
4. 株価の推移	19
5. 役員の状況	20
6. コーポレート・ガバナンスの状況等	24
(1) コーポレート・ガバナンスの状況	24
(2) 監査報酬の内容等	29
第5 経理の状況	30
1. 連結財務諸表等	31
(1) 連結財務諸表	31
(2) その他	68
2. 財務諸表等	69
(1) 財務諸表	69
(2) 主な資産及び負債の内容	90
(3) その他	94
第6 提出会社の株式事務の概要	95
第7 提出会社の参考情報	96
1. 提出会社の親会社等の情報	96
2. その他の参考情報	96
第二部 提出会社の保証会社等の情報	96
監査報告書	

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成23年6月20日
【事業年度】	第47期（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）
【会社名】	株式会社ケー・エフ・シー
【英訳名】	K F C, L t d.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 村上 俊介
【本店の所在の場所】	大阪市北区西天満3丁目2番17号
【電話番号】	06（6363）4188
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 堀口 康郎
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区西天満3丁目2番17号
【電話番号】	06（6363）2689
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 堀口 康郎
【縦覧に供する場所】	株式会社ケー・エフ・シー東京本社 （東京都江東区青海2丁目4番32号 タイム24ビル） 株式会社ケー・エフ・シー横浜営業所 （横浜市都筑区大丸8番4号 都筑岩澤ビル） 株式会社大阪証券取引所 （大阪府中央区北浜1丁目8番16号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第43期	第44期	第45期	第46期	第47期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
売上高(千円)	25,231,486	21,786,324	22,878,315	29,921,767	23,289,353
経常利益(千円)	877,934	460,517	899,759	1,791,584	1,087,485
当期純利益(千円)	970,024	304,659	461,551	969,513	535,812
包括利益(千円)	—	—	—	—	495,391
純資産額(千円)	4,864,959	4,769,327	5,088,860	6,304,947	6,652,416
総資産額(千円)	21,855,632	17,966,911	21,120,372	23,590,191	18,512,588
1株当たり純資産額(円)	720.04	700.74	748.80	855.21	902.46
1株当たり当期純利益金額(円)	146.68	46.08	69.86	145.36	72.68
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率(%)	21.8	25.8	23.4	26.7	35.9
自己資本利益率(%)	22.49	6.49	9.64	17.24	8.27
株価収益率(倍)	4.43	10.18	7.16	4.02	9.04
営業活動によるキャッシュ・フロー(千円)	△431,986	1,873,976	904,498	3,600,780	△2,426,099
投資活動によるキャッシュ・フロー(千円)	△200,606	△48,348	△74,746	△263,527	△206,738
財務活動によるキャッシュ・フロー(千円)	△481,692	△1,054,521	410,059	△1,490,523	△700,661
現金及び現金同等物の期末残高(千円)	1,566,578	2,337,683	3,577,494	5,424,224	2,090,724
従業員数(人)	266	262	259	263	264

(注) 1. 売上高には消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という。)は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 従業員数は就業人員数を表示しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第43期	第44期	第45期	第46期	第47期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
売上高(千円)	22,669,790	19,630,341	21,443,949	27,750,799	22,179,991
経常利益(千円)	800,521	302,377	868,568	1,668,481	1,209,903
当期純利益(千円)	800,098	257,429	453,149	916,408	674,692
資本金(千円)	565,295	565,295	565,295	565,295	565,295
発行済株式総数(株)	7,378,050	7,378,050	7,378,050	7,378,050	7,378,050
純資産額(千円)	4,671,440	4,496,242	4,800,353	6,106,814	6,593,163
総資産額(千円)	21,075,746	17,211,723	20,468,786	22,701,580	17,918,954
1株当たり純資産額(円)	706.51	680.08	726.84	828.33	894.42
1株当たり配当額(うち1株当たり中間配当額)(円)	16.00 (-)	11.00 (-)	15.00 (-)	20.00 (-)	15.00 (-)
1株当たり当期純利益金額(円)	120.98	38.94	68.59	137.40	91.52
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	22.2	26.1	23.5	26.9	36.8
自己資本利益率(%)	18.59	5.62	9.75	16.80	10.63
株価収益率(倍)	5.37	12.04	7.29	4.26	7.18
配当性向(%)	13.2	28.25	21.87	14.56	16.39
従業員数(人)	247	244	244	246	253

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第43期の1株当たり配当額には、大阪証券取引所上場10周年記念配当5円を含んでおります。

4. 第46期の1株当たり配当額には、創立45周年記念配当5円を含んでおります。

5. 従業員数は就業人員数を表示しております。

## 2 【沿革】

年月	事項
昭和40年3月	建設用ファスナー類、建設用鋸打銃及び建設用コンクリートアンカーの販売・施工を目的として東京都江戸川区に株式会社チューガイを設立 同時に大阪、東京、横浜、名古屋、北九州営業所を設置
昭和40年7月	本社を大阪市北区に移転
昭和40年8月	東京営業所を東京支店に昇格
昭和40年10月	商号を建設ファスナー株式会社に変更
昭和41年4月	静岡県静岡市に静岡営業所を設置
昭和43年5月	岡山県岡山市に岡山営業所を設置
昭和43年6月	建設業法により建設大臣登録(ワ) 第5009号の登録完了
昭和44年5月	札幌市に札幌営業所を設置
昭和44年9月	「ホークアンカー」の自動加工を開始
昭和45年3月	大阪市北区に本社及び営業社屋を新築移転
昭和45年8月	大阪市北区にレジン化学工業株式会社(現アールシーアイ・セキジュ株式会社・連結子会社)を設立
昭和47年1月	広島市に広島営業所を設置
昭和49年12月	建設業法の改正にともない建設大臣許可(般-49) 第5750号を取得(以後3年ごとに許可更新)
昭和50年3月	福岡市博多区に福岡営業所を設置
昭和58年10月	大阪府豊中市の株式会社ユナイテッド(カーボフォル・ジャパン株式会社・旧連結子会社)の株式取得
昭和61年1月	商号を株式会社ケー・エフ・シーに変更
平成元年5月	大阪府富田林市に資材部(現販売管理部)大阪流通センターを設置
平成4年3月	埼玉県川口市に資材部(現販売管理部)東京流通センターを設置
平成5年8月	東京都港区に東京本社を設置し、大阪本社を大阪本店に改称
平成6年1月	大阪営業所を大阪支店に昇格
平成6年6月	大阪府富田林市の大阪流通センター内に技術研究所を設置
平成7年12月	建設業法の改正にともない建設大臣許可(般-7) 第5750号を取得(以後5年ごとに許可更新)
平成8年6月	東京本社に一級建築士事務所登録
平成8年7月	仙台市青葉区に東北営業所を設置
平成8年8月	建設大臣許可(特-8) 第5750号を取得(以後5年ごとに許可更新)
平成9年12月	大阪証券取引所市場第二部に上場 大阪市北区に本店社屋を新築
平成10年3月	東京流通センターを関東流通センターに名称変更し、埼玉県加須市へ新築移転、併せて技術研究所を設置
平成11年12月	電気化学工業株式会社と業務提携基本合意を締結
平成13年5月	東京支店においてISO9001:2000を認証取得
平成16年12月	大阪本店総務部及び購買部(現販売管理部)においてISO9001:2000を認証取得
平成17年9月	株式会社アール・シー・アイと積樹道路株式会社が合併し、アールシーアイ・セキジュ株式会社発足
平成19年2月	カーボフォル・ジャパン株式会社を吸収合併し、環境事業部を新設
平成22年2月	アールシーアイ・セキジュ株式会社を100%子会社化

### 3【事業の内容】

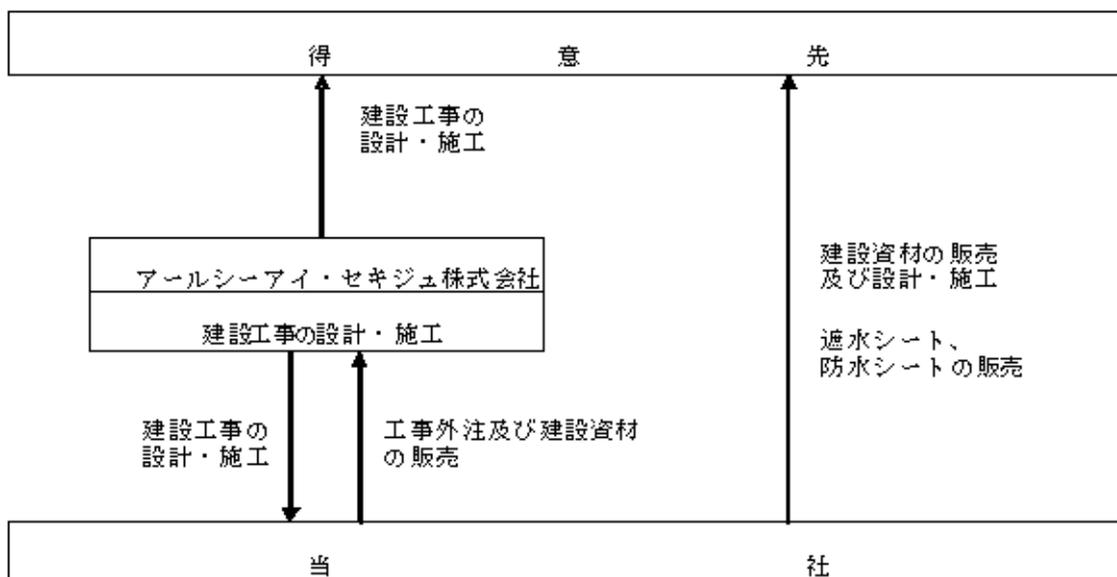
当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（株式会社ケー・エフ・シー）、連結子会社1社により構成されており、主な事業内容は、建設資材の販売・設計・施工及び遮水シート、防水シートの輸入販売・設計・施工等を行っております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社との当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

なお、次の2部門は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表 (1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

- (1) 商品販売事業・・・建設資材の販売であり、主にロックボルトやあと施工アンカー類に係る物品の販売を行っております。
- (2) 建設工事業・・・建設工事の設計・施工等であり、主にトンネル内装・設備工事・耐震補強工事を行っております。なお、子会社アールシーアイ・セキジュ株式会社においても、同一事業を行っております。

事業の系統図は次のとおりであります。



#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の所有 (又は被 所有)割合 (%)	関係内容
(連結子会社) アールシーアイ・ セキジュ株式会社	大阪市北区	74,000	建設工事の 設計・施工	100	工事外注、建設工事の 設計・施工 なお、当社所有の建物 を賃貸しております。

- (注) 1. 上記のうち特定子会社に該当するものではありません。  
 2. 上記子会社は、有価証券届出書又は、有価証券報告書を提出していません。  
 3. 上記子会社1社は、連結売上高に占める売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く。）の割合が10%以下であるため、主要な損益情報等の記載を省略しております。

#### 5 【従業員の状況】

##### (1) 連結会社の状況

平成23年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数 (人)
商品販売	82
建設工事	82
報告セグメント計	164
全社 (共通)	100
合計	264

- (注) 1. 従業員数は就業人員数を表示しております。  
 2. 全社 (共通) として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

##### (2) 提出会社の状況

平成23年3月31日現在

従業員数	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与
253人	40才8ヶ月	14年1ヶ月	5,966,724 円

セグメントの名称	従業員数 (人)
商品販売	82
建設工事	72
報告セグメント計	154
全社 (共通)	99
合計	253

- (注) 1. 従業員数は就業人員数を表示しております。  
 2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
 3. 全社 (共通) として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

##### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、景気は緩やかな回復基調にあったものの、雇用情勢は依然として低迷し、また平成23年3月に発生した東日本大震災の影響を受け、引き続き厳しい状況で推移しました。

このような状況の中、当社グループは従来からの営業方針である「付加価値の高い技術提案型営業」を推進し、さらなる営業基盤の強化に邁進してまいりました。また、平成27年の当社創立50周年を見据えて、効率的な経営を目的とした組織変更や技術開発への投資を積極的に行ってまいりましたが、前期のプロジェクト物件等が一巡したことなどにより、当連結会計年度の売上高は、232億89百万円（前期比22.2%減）で、その内訳は商品売上高が120億85百万円（前期比11.0%減）、完成工事高は112億3百万円（前期比31.5%減）、受注工事高は112億12百万円（前期比12.3%減）となりました。

セグメント別の売上高は以下のとおりであります。

#### 〔商品販売事業〕

厳しい市場環境を受け、当社グループの主力製品である金属製アンカーボルト等の販売数が伸び悩み、売上高は、119億8百万円（前年同期比10.9%減）となりました。

#### 〔建設工事業〕

公共工事の市場収縮、価格競争の激化やプロジェクト工事等が一巡したことにより、売上高は113億80百万円（前年同期比31.2%減）となりました。

#### (2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ33億33百万円減少し、20億90百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動における資金は、税金等調整前当期純利益11億15百万円（前年同期比36.3%減）を計上し、売上債権が17億26百万円減少したものの、仕入債務が37億62百万円減少したことなどにより、24億26百万円の支出（前年同期は36億円の収入）となりました。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動における資金は、投資有価証券の取得による支出などにより、2億6百万円の支出（前年同期比21.5%減）となりました。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動における資金は、有利子負債の圧縮に努めたことにより、7億円の支出（前年同期比53.0%減）となりました。

## 2【受注工事高、完成工事高、繰越工事高、施工高、手持工事高、商品仕入及び販売の状況】

### (1) 受注工事高、完成工事高、繰越工事高及び施工高

項目	工事別	期首繰越工事高 (千円)	期中受注工事高 (千円)	計 (千円)	期中完成工事高 (千円)	期末繰越工事高 手持工事高 (千円)	期末繰越工事高うち 施工高 (千円)	期末繰越工事高うち 施工比率 (%)	期中施工高 (千円)
前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	環境工事	7,103,919	6,335,135	13,439,055	9,701,367	3,737,687	408,138	10.9	9,719,757
	リフレッシュ工事	477,500	424,871	902,371	892,191	10,180	6,271	61.6	718,251
	トンネル及びその他の設備関連工事	343,986	1,423,394	1,767,381	1,378,058	389,322	—	—	1,285,227
	耐震関連工事	522,155	3,447,241	3,969,396	3,723,042	246,354	12,611	5.1	3,436,904
	その他の工事	19,900	1,155,394	1,175,294	650,946	524,348	340	0.1	640,794
	計	8,467,461	12,786,037	21,253,499	16,345,607	4,907,891	427,361	8.7	15,800,935
当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	環境工事	3,737,687	5,653,467	9,391,154	6,194,761	3,196,392	23,400	0.7	5,810,023
	リフレッシュ工事	10,180	466,261	476,441	440,541	35,900	—	—	434,269
	トンネル及びその他の設備関連工事	389,322	1,451,931	1,841,253	1,282,683	558,570	9,119	1.6	1,291,802
	耐震関連工事	246,354	2,923,613	3,169,968	2,646,891	523,077	30,556	5.8	2,664,836
	その他の工事	524,348	717,621	1,241,969	638,996	602,972	1,183	0.2	639,839
	計	4,907,891	11,212,895	16,120,787	11,203,874	4,916,912	64,258	1.3	10,840,771

- (注) 1. 前期以前に受注した工事で、契約の更新により請負金額に変更があるものにつきましては、期中受注工事高にその増減額を含んでおります。従って、期中完成工事高にもかかる増減額が含まれております。
2. 期末繰越工事高うち施工高は未成工事支出金により手持工事高の工事進捗部分を推定したものであります。
3. 期中施工高は、(期中完成工事高+当期末繰越工事高うち施工高-前期末繰越工事高うち施工高)に一致します。
4. 上記の金額は消費税等を含んでおりません。

### (2) 受注工事高及び完成工事高について

当社グループは、建設市場の状況を反映して工事の受注工事高及び完成工事高が平均化しておらず、最近3年間についてみても上半期は次のように季節的に変動しております。

期別	受注工事高			完成工事高		
	1年通期 (A) (千円)	上半期 (B) (千円)	(B) / (A) (%)	1年通期 (C) (千円)	上半期 (D) (千円)	(D) / (C) (%)
第45期	15,992,536	8,669,696	54.2	10,668,819	2,603,837	24.4
第46期	12,786,037	5,893,303	46.1	16,345,607	6,141,533	37.6
第47期	11,212,895	4,551,839	40.6	11,203,874	5,170,453	46.1

### (3) 完成工事高

期別	区分	官公庁	民間	合計
前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	環境工事 (千円)	7,836,194	1,865,173	9,701,367
	リフレッシュ工事 (千円)	864,821	27,370	892,191
	トンネル及びその他の設備関連工事 (千円)	1,048,058	329,999	1,378,058
	耐震関連工事 (千円)	2,381,730	1,341,312	3,723,042
	その他の工事 (千円)	177,779	473,167	650,946
	合計 (千円)	12,308,583	4,037,023	16,345,607
当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	環境工事 (千円)	5,413,011	781,750	6,194,761
	リフレッシュ工事 (千円)	386,843	53,698	440,541
	トンネル及びその他の設備関連工事 (千円)	1,188,321	94,361	1,282,683
	耐震関連工事 (千円)	1,986,581	660,309	2,646,891
	その他の工事 (千円)	416,770	222,225	638,996
	合計 (千円)	9,391,528	1,812,345	11,203,874

- (注) 1. 当社グループが総合建設会社等民間企業を通じて受注した官公庁発注工事につきましては、官公庁欄に計上しております。
2. 上記の金額は消費税等を含んでおりません。

3. 完成工事高のうち主なものは、次のとおりであります。

前連結会計年度の完成工事のうち請負工事1億円以上の主な工事

工事名	発注社名
第二京阪道路交野舗装工事	西日本高速道路株式会社
大阪北道路打上地区遮音壁工事	国土交通省
第二京阪道路門真地区裏面吸音板設置工事	西日本高速道路株式会社
第二京阪道路東倉治地区裏面吸音板設置工事	西日本高速道路株式会社
第二京阪道路宮前地区裏面吸音板工事	西日本高速道路株式会社
第二京阪道路京田辺地区遮音壁工事	西日本高速道路株式会社
常磐自動車道鞍掛トンネル補修工事	東日本高速道路株式会社
首都高速中央環状新宿線S J (1・2) S J 13工区トンネル②	首都高速道路株式会社
北陸自動車道道路保全業務(上越管理事務所)トンネル内装工事	東日本高速道路株式会社
高速2号線遮音壁設置工事	広島高速道路公社
第二京阪道路裏面吸音板工事	西日本高速道路株式会社
第二東名高速道路静岡インターチェンジ遮音壁設置工事	中日本高速道路株式会社
千葉県東葛飾合同庁舎建築改修工事②	千葉県
首都高速道路中央環状新宿線トンネル消火設備工事②	首都高速道路株式会社

当連結会計年度の完成工事のうち請負工事1億円以上の主な工事

工事名	発注社名
東名阪自動車道鳴海地区環境対策工事	中日本高速道路株式会社
東名阪自動車道平針地区環境対策工事	中日本高速道路株式会社
那覇港道路(空港線)耐火被覆材料 (高負)K J 124工区(4)~K J 132工区(1)トンネル	沖縄総合事務局 首都高速道路株式会社
第二東名高速道路富士東遮音壁工事	中日本高速道路株式会社
第二京阪道路交野舗装工事	西日本高速道路株式会社
那覇港(那覇ふ頭地区)道路(空港線)耐火被覆工事	沖縄総合事務局
常磐自動車道関南トンネル内装補修工事	東日本高速道路株式会社
新赤塚埋立処分地整備工事	新潟市
平成21三遠南信三遠トンネル工事	国土交通省
新若戸道路耐火被覆工事	国土交通省
第二東名高速道路静岡インターチェンジ遮音壁設置工事	中日本高速道路株式会社
阪和自動車道長峰トンネル他内装板改修工事(藤白・下津TN)	西日本高速道路株式会社

(4) 手持工事高

(平成23年3月31日現在)

区分	官公庁	民間	合計
環境工事(千円)	3,196,392	—	3,196,392
リフレッシュ工事(千円)	35,900	—	35,900
トンネル及びその他の設備関連工事(千円)	225,772	332,797	558,570
耐震関連工事(千円)	494,089	28,987	523,077
その他の工事(千円)	582,272	20,700	602,972
合計(千円)	4,534,427	382,485	4,916,912

- (注) 1. 当社グループが総合建設会社等民間企業を通じて受注した官公庁発注工事につきましては、官公庁欄に計上しております。
2. 上記の金額は、消費税等を含んでおりません。

3. 手持工事のうち主なものは、次のとおりであります。

手持工事（平成23年3月31日現在）のうち請負金額1億円以上の主な工事

工事名	発注社名	完成予定年月日
第二東名高速道路浜松遮音壁工事	中日本高速道路株式会社	平成23年12月
第二東名高速道路島田遮音壁工事	中日本高速道路株式会社	平成23年12月
第二東名沼津東地区遮音壁工事	中日本高速道路株式会社	平成23年7月
新赤塚埋立処分地整備工事	新潟市	平成23年10月
平成22年度1号静岡昭府地区整備工事	国土交通省	平成23年11月
第二東名高速道路富士東遮音壁工事	中日本高速道路株式会社	平成23年7月
新若戸道路耐火被覆工事	国土交通省	平成23年11月
関越自動車道関越トンネル（下り線）内装板設置工事	東日本高速道路株式会社	平成23年6月

(5) 商品仕入実績

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
商品販売（千円）	8,763,824	8,193,172
建設工事（千円）	943,007	797,707
合計（千円）	9,706,831	8,990,879

(注) 金額は、仕入価格で表示しており、消費税等を含んでおりません。

(6) 売上実績

セグメントの名称	区分	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)			当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)		
		金額（千円）		比率 (%)	金額（千円）		比率 (%)
商品販売	商品売上高	12,509,296			11,194,313		
	完成工事高	860,003	13,369,300	44.7	714,680	11,908,994	51.1
建設工事	商品売上高	1,066,863			891,165		
	完成工事高	15,485,603	16,552,467	55.3	10,489,193	11,380,358	48.9
合計	商品売上高	13,576,160			12,085,478		
	完成工事高	16,345,607	29,921,767	100.0	11,203,874	23,289,353	100.0

(注) 1. 販売数量につきましては、販売品目が多岐にわたり表示が困難なため、記載を省略しております。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
	金額（千円）	割合（%）	金額（千円）	割合（%）
西日本高速道路株式会社	5,579,425	18.6	431,401	1.9
中日本高速道路株式会社	—	—	2,811,654	12.1

(注) 前連結会計年度の中日本高速道路株式会社は、前連結会計年度において当該割合が100分の10未満のため、記載を省略しております。

3. 上記の金額は、消費税等を含んでおりません。

### 3【対処すべき課題】

#### (1) 当社グループとしての現状の認識について

当社グループは昭和40年の創業以来、建築構造物のファスナーに関する専門業者として、又、トンネルを掘削するためのファスナーいわゆるNATM工法の先駆者として、常に新技術の導入と普及に努め、企業規模も順調に拡大してまいりました。しかしながら、平成9年の上場以降、社会全体の景気低迷や建設業界における需要の絶対量不足、受注環境の激化などにより、厳しい経営環境が続いております。このような情勢のもとで当社は、収益改善に向け総コストの圧縮や固有技術の一層の改良と新技術・新工法の開発を行うとともに管理面では情報の一元管理と共有化を目的とした社内情報システムの導入など、将来へ向けての取り組みを行っており、その効果は徐々にではありますが、着実に現れております。

#### (2) 当面の対処すべき課題及び方針

中長期的な経営戦略としましては、低成長が続く時代にあっても、景気動向に左右されない常に安定した収益基盤を確保するために、当社グループが永年培ってまいりました技術力・営業力を結集し、社会のニーズに対応した新商品、新工法の開発に力を入れるとともに、既存事業の活性化や固定費の圧縮に取り組んでおります。又、更なる企業競争力、企業体質の強化を目指し、下記の施策を積極的かつ継続的に推進してまいります。

##### ① 「オンリー・ワン」企業としての技術提案型営業の強化

当社は創業以来付加価値の高い営業活動を行い今日に至っておりますが、再度「技術力によって社会貢献を果たす」という当社の原点に立ち返り、ユーザー・施主のニーズに対応した技術提案型営業を強化して他社との優位性を保ち「オンリー・ワン」企業を目指してまいります。

##### ② 既存事業の活性化と新商品・新工法の改良及び開発

当社は多くの施工実績を有するトンネル・道路のリニューアル工事、耐震補強工事などの今後需要が見込まれる分野に対し積極的に参入するだけでなく、新商品・新工法の普及及び既存商品・工法のさらなる改良を行っております。又、各現場からの意見を取り入れた新しいコンセプトのあと施工アンカー及び特殊ボルト・ナット類や効率的な工法を継続的に開発し、早期事業化を推進してまいります。

##### ③ 収益基盤の改善

建設市場が縮小し受注の絶対量が減少する中、収益基盤を改善するために「量」から「質」への転換を目指してまいります。具体的には、

- ・徹底したコストダウンの追求と高品質な商品を提供するために、販売管理部を中心とした全社規模での集中購買体制を強化してまいります。

- ・競争激化にともない低採算を余儀なくされていた一部の工事を見直し、選別受注による収益性・利益率の向上を目指してまいります。

##### ④ スリムな経営の推進

現在の厳しい市場環境やめまぐるしく変化する社会情勢に迅速かつ的確に対応するために、経営の効率化とスリムな経営に向け、組織と人員の最適化や固定費の削減などを継続的に行い、市場競争に耐えうるコスト競争力を強化することによって企業体質の改善を行ってまいります。

##### ⑤ 連結キャッシュ・フロー経営の重視

健全な会計慣行を維持し、グループにおける透明なキャッシュ・フロー経営を重視してまいります。

#### 4【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財政状況等に影響を及ぼす可能性があると考えられる事項は以下のようなものがあります。当社グループはこれらのリスクの発生可能性を認識した上で、発生の回避又は発生した場合の対応に努め、事業活動を行っております。又、これらのリスクが発生する可能性が生じた場合には、投資家に対する積極的な情報開示を行ってまいります。なお、文中の将来に関する事項は、提出日現在において、当社グループが判断したものであります。

##### ① 市場環境について

当社グループの事業内容は、「あと施行アンカー」や「ロックボルト」などの建設資材の販売や道路、トンネルなどの設備工事を行っており、当然ながら公共投資の削減などの建設業界の動向や設備投資の動向によっては受注が減少し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### ② 売上の季節変動による影響について

当社グループの業績は建設業界の受注形態の特性上季節的な変動があり、とりわけ、公共事業関連の工事については、予算の執行上、年度末に向けて完工物件が多くなる傾向があるため、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

##### ③ 原材料等の市況変動の影響について

当社グループは、原材料として主に鉄鋼、石油製品を使用しており、これらの原材料価格の高騰などにより当社グループの仕入れ調達価格が上昇する場合があります。その際に価格上昇分を販売価格に転嫁できない場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### ④ 製品の品質管理について

当社グループは、製品の品質を重視しており、主力事業所においてISO9001の認証を取得する等、品質管理体制には万全を期しております。しかしながら、当社の予測を超えた事象により製品に欠陥が生じた場合、点検や回収等に伴う費用が発生し、業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### ⑤ 法的規制について

当社グループの事業及び主な取引先は建設業界に属しており、「建設業法」「建築基準法」等により法的規制を受けております。当社グループは販売・施工にあたり、建設業許認可及び登録をしており、これらの許認可等を受けるための諸条件及び関係法令の遵守に努め、現状において当該許認可等が取り消しとなる事由は発生しておりません。しかし、法令違反等によりその許認可等が取り消された場合には、当社グループの運営に支障をきたし、財政状態及び経営成績等に重要な影響を及ぼす可能性があります。

また、これらの規制の改廃や新たな法的制度が設けられる場合には、当社グループの業績に影響を受ける可能性があります。

##### ⑥ 施工物件の瑕疵について

当社グループは、「あと施工アンカー」類の施工や道路、トンネルなどの設備工事を日本全国で行っており、工事の際には十分な現地調査、基礎設計、施工方法等の事前検討を行っておりますが、工事は予期せぬ障害物が現れることもあり、予見できない瑕疵によって施工品質の悪化や施工期間の延長が生じる可能性があります。瑕疵に伴う損害賠償請求等が発生した場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### ⑦ 労災事故災害について

当社グループは、全国で年間数百件の工事を行っており、その作業現場は重機に囲まれた屋外作業が中心となっているため、他の産業に比べ重大な労災事故が発生する危険性が高いものと認識しております。当社グループとしては、現場の安全教育の徹底や定期的なパトロールの実施等により事故の発生防止に全力を挙げております。また、事故が発生した場合の金銭的な損失に備え、各種損害保険に加入しておりますが、仮に死亡事故等の重大災害が発生した場合は、人的損失はもちろんのこと、それに伴う社会的信用の失墜、補償等を含む災害対策費用、工期の遅れによる収益の悪化等、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### ⑧ 取引先の信用リスクについて

当社グループの与信管理は販売顧客の業容・財政状態に応じて与信枠の設定を行うとともに、一定期間ごとに継続して信用状態の把握を行い、不良債権の発生を防止しております。当社グループの主たる得意先は業界大手・中堅及びその関連企業が中心ですが、景気動向にかかわらず取引先が倒産する懸念があります。また、建設業においては、工事完了まで長期間を要し、かつ取引先の取引額も大きく、建設等工事目的物引渡し時に多額の工事代金が支払われる条件で契約が締結されます。このため工事終了前に取引先が信用不安に陥った場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6【研究開発活動】

近年、公共建設投資は減少を余儀なくされ、建設業界の業績は非常に厳しい状況が続く、受注金額の低下傾向は、建設分野の技術革新を猛烈な勢いで促しております。

また、建設投資の軸足が新設からメンテナンスへと確実に移行しつつある現実を踏まえつつ、当社グループは固有の技術の上に、将来、核となるべき新技術・新工法の積極的導入及び知的財産の有効活用も視野に入れ、全社を挙げて取り組んでおります。

当社グループの研究開発は当社技術部を中心に行っており、子会社においては、当社の研究開発活動に参加し、共同で技術の開発・改良をし、社会的ニーズに応えることをモットーとしております。

現在の研究開発は、商品販売事業と建設工事業を包括的にカバーする形で進めており、ファスナー事業部門・土木資材事業部門、建設事業部門の3事業部門における新商品開発のみならず、材料と施工は常に一体であるとの基本理念の下で、商品を用いた効率的な施工方法の研究および施工機器の開発にまで及んでおります。

また、各部門レベルでの顧客ニーズに対応した開発・改良を併せて行っております。

なお、当連結会計年度末におけるグループ全体の研究開発費は、110,364千円であります。

当連結会計年度末における主要な研究開発課題、研究成果及び研究開発費は、次のとおりであります。

### (1)商品販売

本事業分野では、各種あと施工アンカーの研究開発や関連する緩み防止機能付きボルト・ナットやナットの脱落防止システムの開発・改良、ロックボルトおよび施工機器の開発・改良、トンネル補助工法の研究開発、ウォータータイト防水シートや止水注入剤および施工システムの開発・改良、マイクロパイル工法による盛土地盤安定対策の研究開発など、土木・建築分野の「新設工事から既設構造物のメンテナンス」にまで適用可能な商品開発を幅広く総合的に継続して進めております。

これらの研究開発はニーズに直結したものであり、研究開発の成果は常に業績に反映されております。

また、当社が得意とする道路・トンネル施設分野における「環境保護・省エネルギー案件」である太陽光発電、LED照明の周辺技術の研究開発、応用開発も併せて進めております。

(商品販売事業研究開発費 49,147千円)

### (2)建設工事

本事業分野においては、既設インフラの維持補修のための材料と施工法の研究開発と改良を進めております。工種毎に主要な研究開発案件の状況を以下に報告します。

#### ① 土木耐震工事

地下構造物せん断補強工法「RMA工法」は既設地下構造物の耐震性向上を目的とした工法であり、優れた施工性・経済性により施工実績が着実に増加しております。

今後補強効果および経済性のさらなる向上を目的として、材料、施工法、施工機器の研究開発を継続しております。

#### ② トンネル内装工事

今期開発が完了した導水機能付き内装工法「RDN工法」は、トンネル内装と導水工を一体化した新工法で、すでに実施工に採用され、今後実績の増加が見込まれます。

#### ③ 耐火工事

火災時のトンネル本体の劣化防止及び電力・通信ケーブルなどの付帯設備の損傷を防止するための耐火板とその取付け方法について、継続して研究開発を進めております。すでに7件の大型工事に採用され、今後も耐火工事を必要とする多くのプロジェクトが予定されており、これまでの施工実績、施工経験から得た知見を活かしさらなる開発・改良を進めてまいります。

#### ④ トンネル裏込め工事

既設トンネルの維持に有効な覆工背面空洞の充填工法として、当社はSR工法、PG工法、RBSウレタン工法を保有し実績を重ねておりますが、今後需要が増加すると予測される小断面・長大水路トンネルの補修に適した新工法開発を共同で進めております。

また、小断面・長距離圧送をキーワードにした周辺技術・施工機器の研究開発も並行して行い、競争力の向上を図っております。

#### ⑤ コンクリート補強工事

はく落防止機能に加えて高い塩害防止機能と中性化防止機能を備えた「はく落防止シートShiem-CS工法」は、トンネルのほか、橋梁や海岸に近い各種構造物、融雪剤の影響を受ける道路関連施設の劣化防止に効果的な工法で、今期開発が完了し試験施工段階に入りました。

また、既設トンネルの構造補強用パネル工法の開発を継続しております。

(建設工事業研究開発費 61,217千円)

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、提出日現在において当社グループが判断したものであります。

### (1)重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に当たりましては、一定の会計基準の範囲内で見積りが行われている部分があり、資産・負債の数値、並びに報告期間における収益・費用の報告数値に影響を与える様々な要因・仮定に対し、継続して可能な限り正確な見積りと適正な評価を行っておりますが、見積りには不確実性が伴うため、実際の結果は、これらの見積りと異なる場合があります。

### (2)当連結会計年度の経営成績の分析

[当連結会計年度の経営成績について]

#### ① 売上高、受注工事高の状況

当連結会計年度の売上高は、232億89百万円（前期比22.2%減）で、その内訳は商品売上高が120億85百万円（前期比11.0%減）、完成工事高は112億3百万円（前期比31.5%減）、受注工事高は112億12百万円（前期比12.3%減）となりました。

#### ② 営業利益、経常利益の状況

販売費及び一般管理費につきましては、42億57百万円（前年同期比2.5%減）となりましたが、売上高の減少に伴い、営業利益は11億32百万円（前年同期比40.0%減）、経常利益は10億87百万円（前年同期比39.3%減）となりました。

#### ③ 当期純利益の状況

貸倒引当金戻入額などの特別利益を73百万円計上した結果、当期純利益は5億35百万円（前年同期比44.7%減）となりました。

[当連結会計年度の財政状態について]

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べて50億77百万円減少した結果、185億12百万円となりました。

#### ① 資産の部

流動資産は、110億74百万円となり、前連結会計年度末に比べ52億24百万円（前年同期比32.1%減）の減少となりました。これは主に、仕入債務や有利子負債の返済に伴う現金及び預金の減少によるものであります。固定資産は、74億23百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億37百万円（前年同期比1.9%増）の増加となりました。これは主に、機械装置及び運搬具の購入によるものであります。

#### ② 負債の部

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて54億25百万円減少した結果、118億60百万円となりました。流動負債は、92億46百万円となり、前連結会計年度末に比べ50億43百万円（前年同期比35.3%減）の減少となりました。これは主に、支払手形及び工事未払金の減少によるものであります。固定負債は、26億13百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億81百万円（前年同期比12.7%減）の減少となりました。これは主に、長期借入金の減少によるものであります。

#### ③ 純資産の部

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ3億47百万円（前年同期比5.5%増）増加し、66億52百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加によるものであります。

### (3)経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 4. 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

### (4)資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資金状況は、営業活動における資金では、税金等調整前当期純利益11億15百万円（前年同期比36.3%減）を計上し、売上債権が17億26百万円減少したものの、仕入債務が37億62百万円減少したことなどにより、24億26百万円の支出（前年同期は36億円の収入）となりました。投資活動における資金は、投資有価証券の取得による支出などにより、2億6百万円の支出（前年同期比21.5%減）となりました。財務活動における資金は、有利子負債の圧縮に努めたことにより、7億円の支出（前年同期比53.0%減）となりました。

### (5)経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループは、ファスニング業界のリーディングカンパニーとして常に顧客ニーズに対応した付加価値の高い商品及び施工技術を提供できる企業を目指してまいりました。当社グループをとりまく経済環境は厳しい状況が続いておりますが、当社は平成27年3月に「会社設立50周年」を迎えることとなり、来期48期以降、今後50年・60年と安定した収益を計上できる強い企業にするべく活力に溢れた企業グループの構築を目指し、人材育成や研究開発・新規事業への取組みを積極的に行うとともに、海外市場の動向にもこれまで以上に注視し、さらなる営業力の強化と社内体制の整備を行ってまいります。また、専門分野における「技術提案型営業」を強化し、少しでも『得べき利益の逸失を無くす』よう営業・施工・技術・管理面のあらゆる角度から分析を行うとともに

に、コンプライアンスの遵守やコーポレート・ガバナンスの強化などにも積極的に取り組み、企業価値の向上に努めてまいります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループでは、修繕費用等のコストダウン及び今後の受注拡大に向けての投資等として、商品販売事業における機械装置及び運搬具を中心に、329,047千円の設備投資を行いました。

また、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。なお、この項に記載の金額には消費税等を含んでおりません。

##### (1) 提出会社

(平成23年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメントの名称 (注1)	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)		
			建物及び 構築物 (千円)	機械装置及 び運搬具 (千円)	工具、器具 及び備品 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)		合計 (千円)	
営業設備	本店 (大阪市北区)	A・B・C	統括業務 施設及び 販売設備	907,155	99,515	6,272	2,745,152 (1,001.42)	24,374	3,782,469	72
	東京本社 (東京都江東区)	A・B・C	販売設備	217	74,422	3,142	—	43,819	121,602	82
	札幌営業所 (札幌市東区)	A	販売設備	123,555	57	779	66,525 (340.75)	1,365	192,283	1
	横浜営業所 (横浜市都筑区)	A・B	販売設備	542	100	529	—	4,536	5,709	9
	名古屋営業所 (愛知県清須市)	A・B	販売設備	7,125	—	—	—	11,999	19,125	21
	その他	A・B	販売設備	20,259	479	617	1,264 (23.22)	36,545	59,166	47
その他の 設備	販売管理部大阪流通 センター (大阪府富田林市)	C	物流倉庫	75,010	2,195	581	323,310 (4,459.45)	6,095	407,192	6
	販売管理部関東流通 センター (埼玉県加須市)	C	物流倉庫	372,735	2,106	1,126	952,006 (11,701.32)	1,890	1,329,866	4
	技術研究所 (大阪府富田林市)	C	技術研究 施設	8,884	221	—	—	—	9,106	5
	技術研究所 (埼玉県加須市)	C	技術研究 施設	84,199	7,234	5,418	—	3,838	100,690	6
合計	—	—	1,599,687	186,334	18,468	4,088,258 (17,526.16)	134,464	6,027,212	253	

## (2) 国内子会社

(平成23年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称 (注1)	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (千円)	機械装置 及び運搬 具 (千円)	工具、器 具及び備 品 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)	合計 (千円)	
アールシー アイ・セキ ジュ株式会 社	大阪本店 (大阪市北区)	B・C	販売及び 施工設備	—	—	71	—	637	708	4
	東京本社 (東京都港区)	B・C	販売及び 施工設備	310	—	706	—	2,136	3,154	7
合計		—	—	310	—	778	—	2,773	3,863	11

(注) 1. セグメントの名称につきましては、以下の記号により区分しております。

- A 商品販売事業
- B 建設工事業
- C その他

2. 提出会社の建物には、貸与中の建物107,210千円を含んでおり一般取引先に貸与されております。
3. 当社グループでは、建物の一部を賃借しております。賃借料は121,069千円であります。
4. 現在休止中の主要な設備はありません。
5. 上記の他、主要な賃借及びリース設備として、以下のものがあります。

提出会社

事業所名 (所在地)	セグメン トの名称	設備の内容	数量	リース期間	支払リース料	残高	摘要
大阪本店 (大阪市北 区)	A	トンネル掘 削資材用吹 付機等	20台	5年間	7,509千円	8,135千円	所有権移転 外ファイナ ンス・リー ス

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	18,970,000
計	18,970,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成23年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成23年6月20日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,378,050	同左	大阪証券取引所 市場第二部	単元株式数1,000株
計	7,378,050	同左	—	—

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成13年7月11日 ～平成13年9月7日	△30,000	7,378,050	—	565,295	—	376,857

(注) 発行済株式総数の減少は、利益による自己株式の消却による減少であります。

#### (6)【所有者別状況】

平成23年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							単元未満株 式の状況 (株)	
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	10	4	59	1	—	202	276	—
所有株式数 (単元)	—	931	14	2,473	7	—	3,947	7,372	6,050
所有株式数の 割合(%)	—	12.63	0.19	33.55	0.09	—	53.54	100.00	—

(注) 自己株式6,594株は「個人その他」に6単元及び「単元未満株式の状況」に594株含めて記載しております。

## (7) 【大株主の状況】

平成23年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合 (%)
高田 信子	大阪府吹田市	784	10.63
積水樹脂株式会社	大阪市北区西天満2-4-4	777	10.53
高田 俊太	東京都目黒区	378	5.12
ケー・エフ・シー取引先持株会	大阪市北区西天満3-2-17 株式会社ケー・エフ・シー総務部内	330	4.47
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	325	4.40
吉田 隆興	大阪府吹田市	216	2.93
新井 嘉重	大阪府高槻市	211	2.86
電気化学工業株式会社	東京都中央区日本橋室町2-1-1	200	2.71
ケー・エフ・シー従業員持株会	大阪市北区西天満3-2-17	194	2.64
坂本 澄雄	大阪府箕面市	186	2.52
計	—	3,601	48.81

## (8) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 6,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 7,366,000	7,366	—
単元未満株式	普通株式 6,050	—	—
発行済株式総数	7,378,050	—	—
総株主の議決権	—	7,366	—

(注) 上記「単元未満株式数」には、当社保有の自己株式594株が含まれております。

## ② 【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所 有株式数 (株)	他人名義所 有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社ケー・エフ・ シー	大阪市北区西天満3-2 -17	6,000	—	6,000	0.08
計	—	6,000	—	6,000	0.08

## (9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

### 【株式の種類等】

会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第13号に該当する普通株式の取得

#### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

#### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
取締役会 (平成21年6月19日) での決議状況 (取得期間 平成21年6月22日～平成22年6月17日)	300,000	200,000,000
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	—	—
残存決議株式の総数及び価額の総額	300,000	200,000,000
当事業年度の末日現在の未行使割合 (%)	100.0	100.0
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合 (%)	100.0	100.0

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
取締役会 (平成22年6月18日) での決議状況 (取得期間 平成22年6月21日～平成23年6月16日)	300,000	180,000,000
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	—	—
残存決議株式の総数及び価額の総額	300,000	180,000,000
当事業年度の末日現在の未行使割合 (%)	100.0	100.0
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合 (%)	100.0	100.0

#### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	979	473,919
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式には、平成23年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

#### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	6,594	—	6,594	—

(注) 当期間における保有自己株式には、平成23年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### 3 【配当政策】

当社は、利益配分につきましては経営の最重要課題の一つと考え、安定的な配当を継続することを基本原則とするとともに、経済情勢、業界の動向、当社の業績に対応した配当を行っていく方針であります。

これらの剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本的な方針としており、その決定機関は、期末配当につきましては株主総会であり、中間配当につきましては取締役会であります。

当期の配当につきましては、1株当たり15円の配当を実施することに決定致しました。

なお、内部留保金につきましては、経営体質の一層の充実並びに将来の事業拡大のための設備投資や技術力強化等に有効活用する方針であります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成23年6月17日定時株主総会決議	110,571	15

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第43期	第44期	第45期	第46期	第47期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
最高(円)	720	759	643	673	670
最低(円)	614	458	392	479	467

(注) 最高・最低株価は大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。

#### (2) 【最近6ヶ月間の月別最高・最低株価】

月別	平成22年10月	11月	12月	平成23年1月	2月	3月
最高(円)	518	497	615	630	600	657
最低(円)	470	467	497	611	551	610

(注) 最高・最低株価は大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	執行役員社長	村上 俊介	昭和21年10月21日生	昭和44年3月 関西大学経済学部中退 昭和44年2月 当社入社 平成3年5月 建設本部東京建設部次長 平成6年3月 取締役東京建設部長 平成7年11月 取締役東京支店長 平成9年4月 取締役営業本部副本部長 平成12年4月 取締役特需営業部長 平成13年4月 取締役営業統括部建設工事部門担 当 平成15年4月 取締役営業統括部東京支店長兼建 設工事部門担当 平成15年6月 常務取締役営業統括部東京支店長 兼建設工事部門担当 平成17年4月 常務取締役 平成17年6月 代表取締役社長 (現任)	(注) 2	58
代表取締役 副社長	執行役員副社長 営業企画推進部 長	高田 俊太	昭和43年2月10日生	平成3年3月 甲南大学経済学部卒業 平成4年8月 当社入社 平成16年4月 営業統括部東京支店建設部副部長 平成17年4月 営業推進部長 平成17年6月 取締役営業推進部長 平成19年4月 取締役営業企画推進部長 平成23年6月 代表取締役副社長営業企画推進部 長 (現任)	(注) 2	378
取締役副社長	執行役員副社長 内部統制委員会 委員長 管理統括部長兼 経営企画室長兼 総務部長	堀池 康友	昭和24年5月22日生	昭和47年3月 大阪市立大学商学部卒業 昭和47年4月 株式会社三和銀行 (現 株式会社 三菱東京UFJ銀行) 入行 平成12年4月 同行公共法人部部長 平成13年6月 当社顧問 平成13年6月 取締役経営企画室長 平成17年4月 取締役管理統括部副統括部長兼経 営企画室長 平成17年5月 常務取締役管理統括部副統括部長 兼経営企画室長 平成18年4月 常務取締役管理統括部長兼経営企 画室長 平成18年6月 専務取締役管理統括部長兼経営企 画室長 平成20年4月 専務取締役内部統制委員会委員長 兼財務担当兼経営企画室長 平成22年4月 専務取締役内部統制委員会委員長 兼管理統括部長兼経営企画室長兼 総務部長 平成22年6月 取締役副社長内部統制委員会委員 長管理統括部長兼経営企画室長兼 総務部長 (現任)	(注) 2	14

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
専務取締役	専務執行役員 営業部門(統括)担当	森田 正博	昭和23年4月23日生	昭和46年3月 岡山大学農学部卒業 昭和46年4月 当社入社 平成9年4月 営業本部名古屋支店長 平成10年3月 取締役名古屋支店長 平成12年4月 取締役営業統括部名古屋支店長 平成15年6月 常務取締役営業統括部名古屋支店長 平成16年4月 常務取締役営業統括部大阪支店長 兼建設工事部門管掌 平成17年4月 常務取締役建設事業部長兼大阪支店長 平成17年5月 常務取締役建設事業部長 平成18年4月 常務取締役土木資材事業部長 平成20年4月 常務取締役営業部門(統括)担当 兼土木資材事業部長 平成20年6月 専務取締役営業部門(統括)担当 (現任)	(注)2	57
常務取締役	常務執行役員 建設事業部長	中村 武志	昭和24年5月7日生	昭和43年3月 大阪府立今宮工業高等学校卒業 昭和47年9月 当社入社 平成6年4月 営業本部大阪建設部副部長 平成7年4月 営業本部大阪建設部部長 平成12年4月 営業統括部大阪支店建設部長 平成14年6月 営業統括部東京支店建設部長 平成16年4月 執行役員営業統括部東京支店建設部長 平成17年4月 執行役員建設事業部東京建設部長 平成18年4月 執行役員建設事業部長兼工事部長 平成18年6月 取締役建設事業部長兼工事部長 平成19年4月 取締役建設事業部長 平成22年6月 常務取締役建設事業部長(現任)	(注)2	14
取締役	取締役執行役員 土木資材事業部長	箕輪 雅朗	昭和18年4月25日生	昭和42年3月 早稲田大学第一政経学部卒業 昭和42年4月 八幡金属加工(株)(現日鐵住金建材(株))入社 昭和62年2月 同社土木営業第一部土木調整室長 平成6年7月 同社道路環境商品事業部営業部長 平成8年1月 同社道路環境商品部長 平成11年6月 同社東北支店長 平成13年6月 同社参与 平成15年3月 富岳物産(株)代表取締役社長 平成19年3月 同社顧問 平成19年10月 当社顧問 平成20年6月 取締役土木資材事業部長 平成21年6月 取締役土木資材事業部長兼東京土木営業部長 平成22年4月 取締役土木資材事業部長(現任)	(注)2	5

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	執行役員 技術部長	羽馬 徹	昭和33年1月11日生	昭和55年3月 東海大学海洋学部卒業 昭和55年3月 当社入社 平成14年4月 技術部副部長 平成19年4月 技術部長 平成20年4月 執行役員技術部長 平成23年6月 取締役技術部長(現任)	(注)2	5
常勤監査役		柳澤 文夫	昭和21年12月2日生	昭和45年3月 明治大学政経学部卒業 昭和60年10月 当社入社 平成8年4月 管理本部経理部副部長 平成10年4月 管理本部経理部長 平成12年4月 管理統括部経理部長 平成12年6月 管理統括部東京管理部長 平成15年4月 執行役員管理統括部東京管理部長 平成17年6月 常勤監査役(現任)	(注)3	9
監査役		長田 啓子	昭和24年4月15日生	昭和47年3月 中央大学法学部卒業 昭和58年10月 尾台会計事務所入所 昭和61年9月 藤浪会計事務所入所 平成2年10月 長田会計事務所開業 平成7年4月 当社非常勤顧問 平成12年3月 当社非常勤顧問契約満了 平成17年6月 監査役(現任)	(注)3	-
監査役		五島 洋	昭和46年6月8日生	平成6年3月 岡山大学法学部卒業 平成8年3月 同志社大学大学院法学研究科卒業 平成10年4月 弁護士登録 飛翔法律事務所(現弁護士法人飛翔法律事務所)代表社員就任 平成21年6月 当社監査役(現任)	(注)3	-
計						540

- (注) 1. 監査役 長田啓子、五島洋の両氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
2. 取締役の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
3. 監査役の任期は、平成21年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

4. 当社では、意思決定・監督と執行の分離による取締役会の活性化のため、執行役員制度を導入しております。

平成23年6月20日現在における執行役員は以下のとおりであります。

※印は取締役を兼務しております。

役名	氏名	職名
※ 執行役員社長	村上 俊介	
※ 執行役員副社長	高田 俊太	営業企画推進部長
※ 執行役員副社長	堀池 康友	内部統制委員会委員長 管理統括部長兼経営企画室長兼総務部長
※ 専務執行役員	森田 正博	営業部門（統括）担当
※ 常務執行役員	中村 武志	建設事業部長
※ 取締役執行役員	箕輪 雅朗	土木資材事業部長
※ 取締役執行役員	羽馬 徹	技術部長
専務執行役員	宮崎富士男	環境資材事業部長兼営業企画推進部部長
執行役員	森田 実	建設営業三部長
執行役員	御庄 俊式	大阪土木営業部長
執行役員	村井 良和	工事部長
執行役員	堀口 康郎	経理部長
執行役員	林 豊	建設事業部部長兼リニューアル営業部長
執行役員	石原 淳	東京土木営業部長

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### ① 企業統治の体制

##### ・企業統治の体制の概要

当社グループは、事業規模及びその内容から、取締役の業務の遂行を監督する取締役会と取締役会決議事項の事前審議及び取締役会からの委任事項の決定を行う経営会議、取締役の業務執行を監査する監査役会（うち2名が社外監査役）を基本構成とするガバナンス体制により、経営の透明性の確保や経営監視機能の充実が図られるものと考え、監査役会設置会社の形態を採用しております。

当社の体制の概要及びその機能等は以下のとおりです。

#### イ. 取締役会

取締役会は、原則月に1回の定例の取締役会に加え、必要に応じて臨時取締役会を開催し、法令や定款に定められた事項や重要な経営事項を決定しております。また、変化の激しい経営環境に迅速に対応するため取締役の任期を1年としております。

#### ロ. 経営会議

経営会議は、役付取締役（5名）で構成され、原則月1回の開催のほか、必要に応じて随時開催することにより、取締役会決議事項の事前審議や取締役会から委任された事項等について、的確、適正かつ迅速な経営判断を行える体制をとっております。

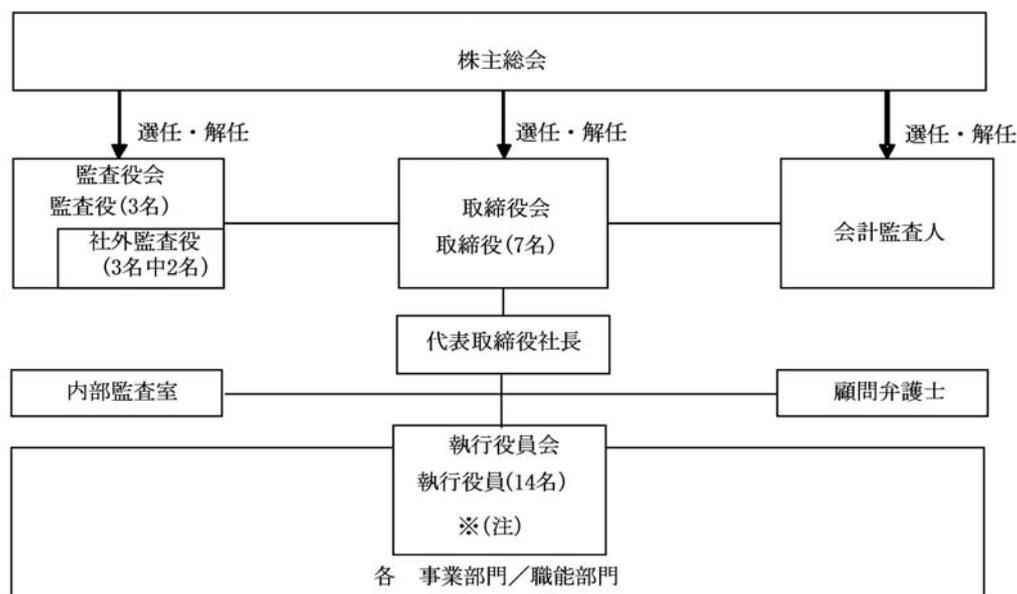
#### ハ. 監査役会

監査役会は、3名の監査役（うち2名が社外監査役）で構成され、各監査役は、監査役会が定めた監査の方針、業務の分担等に基づき、業務執行の適法性について監査を実施しております。また、取締役の業務執行に対する監督機能の強化と外部的視点での助言機能の充実を図るために3名の監査役は、取締役会に出席し、必要に応じて取締役または使用人に説明を求め、経営監視機能の充実を図っております。

#### ニ. 会計監査人

会計監査人は、太陽ASG有限責任監査法人を選任し、監査役と連携し会計における適正性を確保しております。当社の当事業年度の会計監査業務を執行する公認会計士は柳承煥氏、宮内威氏であり、両氏とも継続監査年数7年以内であります。また、会計監査業務の補助者は、公認会計士5名、その他7名で構成されております。

（平成23年6月20日現在）



（注）取締役兼務執行役員7名と執行役員7名

・企業統治の体制を採用する理由

当社では、会社の規模に見合った効率的かつ機動的な運営ができる組織体制を目指しております。

現状、取締役の業務遂行状況を多角的な視点でチェックできるよう社外監査役2名を選任し、独立的かつ客観的見地からの質問や忌憚のない意見を受けていることから、監査役による経営の監督機能が有効に働いていると考えており、社外取締役の選任は行っておりません。

なお、将来的に業容が拡大し、組織体制を強化する必要がある場合には、当社の経営実態を把握し、重点課題に関する分野に精通している適任者を社外取締役として選任する可能性はあります。

・内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムにつきましては、内部統制委員会を設置しており、関係各部が集まり問題点の洗い出しや検討を適宜行っております。また、社内的な評価等につきましては主に、内部監査室（専任者3名）が内部監査規程に基づき法規、諸規程、コンプライアンスの公正、適正な運用と管理状況を監査しております。

また、財務報告の信頼性の確保、及び正確な情報開示を行う体制を構築するための社内規程の整備を積極的に行っており、適宜、監査役会及び監査法人とも意見交換を行い、内部統制システムの整備・運用状況に関するアドバイスを受けております。

・リスク管理体制の整備の状況

リスク管理体制の構築・整備が取締役の善管注意義務であるという認識に基づき、経営方針の徹底、組織構築に取り組んでおります。

リスク管理体制につきましては、一層の充実・強化を図るため、総務部を主管部署として各事業部門と連携をとり、継続的に監視、把握を行い、必要に応じて社内主要会議にて適切な対応を検討するとともに、法律上の判断を必要とする場合には顧問弁護士に適宜アドバイスを受けております。また、別途安全管理室を設置し、施工管理の徹底と事故等のリスク管理を行っております。

内部監査として、内部監査室による定期的な部門別業務監査を実施し、その指摘事項については被監査部門から改善状況の報告を受けることにより進捗の管理を行っております。

また、「企業が反社会的勢力による被害を防止するための指針」と致しましては、経験豊富な危機管理責任者を任命（専従）し、平素から情報収集に努め外部専門機関との連絡連携を密に行うとともに、反社会的勢力による不当要求が発生した場合の対応方法についても、社内教育を徹底し対応しております。

② 内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部監査及び監査役監査の組織は、内部監査は常勤3名、監査役監査は、常勤1名、社外監査役2名の体制で、社外監査役には弁護士及び税理士を招聘し、コンプライアンスに則した業務監査の強化を図るとともに、各事業所の内部統制システムの整備・運用状況及び法令遵守状況を中心に監視・監督を行い、企業不祥事の未然防止を図ると同時に、会計監査人との連携を密にして、必要に応じ意見交換を行い監査効率の向上に努めております。

また、社内監査を行う社長直轄の内部監査室に専従者3名を配置し、部門別業務監査の結果、改善の必要がある部門に対して監査役と連携し重要事項についての情報交換と指導を実施しております。

なお、常勤監査役柳澤文夫は、当社の経理部に平成7年6月から平成12年6月まで在籍し、通算5年にわたり決算手続並びに財務諸表の作成等に従事しておりました。

③ 会計監査の状況

会計監査につきましては、太陽A S G有限責任監査法人が実施しており、業務執行社員は、柳承煥氏、宮内威氏の2名であり、監査業務に係る補助者の構成は、公認会計士5名、その他7名であります。

④ 社外取締役及び社外監査役

当社の社外監査役は2名であり、社外取締役は選任しておりません。

監査役長田啓子は、税理士としての専門的な知識及び実務経験を有し、会計・税務面での専門的見地から意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。また、取締役会及び監査役会において、当社の内部統制について必要な助言・提言を適宜行っております。

監査役五島洋は、弁護士としての専門的な知識及び実務経験を有し、法務面での専門的見地から意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。また、取締役会及び監査役会において、当社の内部統制について必要な助言・提言を適宜行っております。

また、当社は、監査役の機能を強化する観点から、社外監査役のうち1名を独立役員に指定しており、監査役と会計監査人との定期的な打ち合わせや随時の情報交換を行うことにより、監視機能の強化に取り組むとともに、監査役、内部監査室及び会計監査人が連携し、内部統制の充実を図っております。

なお、当社と上記社外監査役との間には特別の利害関係はありません。

⑤ 役員報酬等

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	181,038	135,670	—	45,368	—	8
監査役 (社外監査役を除く)	10,400	9,600	—	800	—	1
社外役員	10,400	9,600	—	800	—	2

ロ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の役員報酬の決定に際しては、当社が持続的な成長を図っていくために、業績拡大及び企業価値向上に対する報奨として有効に機能することを目指しております。また、報酬額の水準につきましては、同業他社及び同規模の企業と比較の上、当社の業績に見合った水準を設定し、業績等に対する各取締役の貢献度に基づき報酬の額を決定しております。

⑥ その他

イ. 取締役の定数

当社の取締役は20名以内とする旨を定款に定めております。

ロ. 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨また、累積投票によらない旨を定款に定めております。

ハ. 取締役会にて決議できる株主総会決議事項

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって同条第1項に定める市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

ニ. 取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

ホ. 責任限定契約の内容の概要

当社と社外監査役は会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令で規定する金額であります。なお、当該責任限定が認められるのは当該社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限られます。

ヘ. 剰余金の配当等の決定機関

剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本的な方針としており、その決定機関は、期末配当につきましては株主総会であり、中間配当につきましては取締役会であります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

ト. 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

⑦ 株式の保有状況

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

銘柄数：26銘柄

貸借対照表計上額の合計額：818,617千円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (千円)	保有目的
電気化学工業株式会社	740,000	297,480	企業間取引の安定
ダイダン株式会社	127,000	59,690	企業間取引の安定
株式会社りそなホールディングス	46,600	55,081	企業間取引の安定
象印マホービン株式会社	219,000	47,085	企業間取引の安定
株式会社南都銀行	89,000	46,636	企業間取引の安定
S E C カーボン株式会社	69,000	38,295	企業間取引の安定
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	66,200	32,438	企業間取引の安定
株式会社池田泉州ホールディングス	170,200	28,934	企業間取引の安定
株式会社高松コンストラクショングループ	21,800	25,004	企業間取引の安定
株式会社滋賀銀行	42,000	24,780	企業間取引の安定
日本電子材料株式会社	39,312	24,176	企業間取引の安定
大阪機工株式会社	222,000	21,312	企業間取引の安定
神島化学工業株式会社	80,000	17,440	企業間取引の安定
那須電機鉄工株式会社	46,000	14,904	企業間取引の安定
日本乾溜工業株式会社	76,000	8,892	企業間取引の安定
積水樹脂株式会社	8,000	6,464	企業間取引の安定

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (千円)	保有目的
電気化学工業株式会社	740,000	303,400	企業間取引の安定
積水樹脂株式会社	128,000	110,080	企業間取引の安定
ダイダン株式会社	127,000	63,627	企業間取引の安定
象印マホービン株式会社	219,000	48,399	企業間取引の安定
株式会社南都銀行	89,000	35,600	企業間取引の安定
S E C カーボン株式会社	69,000	30,153	企業間取引の安定
株式会社高松コンストラクショングループ	21,800	29,299	企業間取引の安定
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	66,200	25,420	企業間取引の安定
大阪機工株式会社	222,000	24,420	企業間取引の安定
日本電子材料株式会社	39,312	20,599	企業間取引の安定
株式会社池田泉州ホールディングス	170,200	19,232	企業間取引の安定
神島化学工業株式会社	80,000	19,200	企業間取引の安定
株式会社りそなホールディングス	46,600	18,453	企業間取引の安定
株式会社滋賀銀行	42,000	18,354	企業間取引の安定
那須電機鉄工株式会社	46,000	16,928	企業間取引の安定
日本乾溜工業株式会社	76,000	12,464	企業間取引の安定
豊田通商株式会社	3,900	5,350	企業間取引の安定
株式会社イトーヨーギョー	13,000	2,470	企業間取引の安定
コンドーテック株式会社	2,760	1,945	企業間取引の安定
日亜鋼業株式会社	8,000	1,888	企業間取引の安定
東京鐵鋼株式会社	3,000	804	企業間取引の安定
日本デコラックス株式会社	1,000	515	企業間取引の安定
株式会社奥村組	1,271	443	企業間取引の安定

ハ. 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額  
該当事項はありません。

ニ. 投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの銘柄、株式数、貸借対照表計上額  
該当事項はありません。

ホ. 投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの銘柄、株式数、貸借対照表計上額  
該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬 (円)	非監査業務に基づく報酬 (円)	監査証明業務に基づく報酬 (円)	非監査業務に基づく報酬 (円)
提出会社	27,000,000	—	27,000,000	—
連結子会社	—	—	—	—
計	27,000,000	—	27,000,000	—

② 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、監査日数、業務の特性等を勘案して監査人と協議のうえ決定いたしております。

## 第5【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

なお、前連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）第2条の規定に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）により作成しております。

なお、第46期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、第47期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の連結財務諸表及び第46期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の財務諸表並びに当連結会計年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の連結財務諸表及び第47期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の財務諸表について、太陽A S G有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、また、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナーへ参加しております。

1 【連結財務諸表等】  
 (1) 【連結財務諸表】  
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,923,585	2,090,724
受取手形	3,639,944	2,436,758
売掛金	2,533,921	2,777,184
完成工事未収入金	2,632,166	1,862,284
有価証券	1,500,638	—
未成工事支出金等	684,437	304,721
商品	767,222	968,855
繰延税金資産	139,922	67,191
その他	522,761	588,204
貸倒引当金	△45,580	△21,561
流動資産合計	16,299,020	11,074,362
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	※1 2,864,273	※1 2,873,036
減価償却累計額	△1,210,466	△1,273,038
建物及び構築物（純額）	1,653,806	1,599,997
機械装置及び運搬具	879,523	945,747
減価償却累計額	△812,490	△759,413
機械装置及び運搬具（純額）	67,033	186,334
工具、器具及び備品	103,425	99,385
減価償却累計額	△83,367	△80,138
工具、器具及び備品（純額）	20,057	19,247
土地	※1 4,088,258	※1 4,088,258
リース資産	157,217	220,543
減価償却累計額	△40,865	△83,305
リース資産（純額）	116,351	137,238
有形固定資産合計	5,945,508	6,031,075
無形固定資産		
ソフトウェア	25,796	93,973
リース資産	340	203
その他	14,705	13,602
無形固定資産合計	40,842	107,780
投資その他の資産		
投資有価証券	772,492	818,617
繰延税金資産	86,464	45,447
長期預金	300,000	300,000
その他	301,204	259,140
貸倒引当金	△161,169	△138,834
投資その他の資産合計	1,298,991	1,284,371
固定資産合計	7,285,341	7,423,226
繰延資産		
社債発行費	5,829	14,999
繰延資産合計	5,829	14,999
資産合計	23,590,191	18,512,588

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	7,474,424	4,816,849
買掛金	993,575	947,172
工事未払金	1,790,362	750,103
短期借入金	250,000	※1 350,000
1年内返済予定の長期借入金	※1 1,880,040	※1 1,527,260
1年内償還予定の社債	60,000	170,000
リース債務	35,006	47,481
未払法人税等	684,278	31,495
未成工事受入金及び前受金	391,579	72,909
その他	730,438	533,083
流動負債合計	14,289,704	9,246,356
固定負債		
社債	240,000	585,000
長期借入金	※1 2,373,560	※1 1,674,700
リース債務	88,034	97,297
退職給付引当金	81,531	91,450
その他	212,413	165,367
固定負債合計	2,995,539	2,613,815
負債合計	17,285,244	11,860,172
純資産の部		
株主資本		
資本金	565,295	565,295
資本剰余金	376,857	376,857
利益剰余金	5,259,040	5,647,404
自己株式	△3,452	△3,926
株主資本合計	6,197,740	6,585,630
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	111,062	67,473
繰延ヘッジ損益	△3,855	△686
その他の包括利益累計額合計	107,206	66,786
純資産合計	6,304,947	6,652,416
負債純資産合計	23,590,191	18,512,588

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
売上高		
商品売上高	13,576,160	12,085,478
完成工事高	16,345,607	11,203,874
売上高合計	29,921,767	23,289,353
売上原価		
商品売上原価	9,952,576	8,789,247
完成工事原価	13,715,169	9,111,071
売上原価合計	23,667,746	17,900,318
商品売上総利益	3,623,583	3,296,231
完成工事総利益	2,630,437	2,092,802
売上総利益	6,254,021	5,389,034
販売費及び一般管理費		
荷造及び発送費	465,430	530,640
販売手数料	20,504	34,683
貸倒引当金繰入額	4,581	—
役員報酬及び給料手当	1,988,235	1,841,337
退職給付費用	222,173	211,318
接待交際費	49,269	47,555
福利厚生費	385,817	375,985
賃借料	168,286	158,556
減価償却費	137,194	157,534
その他	※1 924,488	※1 899,394
販売費及び一般管理費合計	4,365,983	4,257,006
営業利益	1,888,037	1,132,028
営業外収益		
受取利息	3,958	2,662
受取配当金	12,341	17,337
仕入割引	4,460	3,439
受取家賃	21,942	21,942
技術提供収入	—	15,762
破産債権配当金	113	349
負ののれん償却額	15,969	—
その他	11,571	16,671
営業外収益合計	70,358	78,166
営業外費用		
支払利息	116,742	84,776
支払手数料	36,105	24,080
その他	13,962	13,852
営業外費用合計	166,811	122,709
経常利益	1,791,584	1,087,485

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	※2 1,975	—
投資有価証券売却益	7	—
損害補償損失引当金戻入益	19,789	—
貸倒引当金戻入額	—	18,903
確定拠出年金過去勤務債務修正額	—	54,410
特別利益合計	21,772	73,313
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	※3 69	—
固定資産除却損	※4 13,936	※4 4,135
投資有価証券評価損	8,430	—
社債償還損	38,109	—
商品補償損失	—	35,911
災害による損失	—	4,779
特別損失合計	60,545	44,827
税金等調整前当期純利益	1,752,811	1,115,971
法人税、住民税及び事業税	769,552	461,137
法人税等調整額	△9,465	119,021
法人税等合計	760,086	580,159
少数株主損益調整前当期純利益	—	535,812
少数株主利益	23,211	—
当期純利益	969,513	535,812

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	—	535,812
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△43,589
繰延ヘッジ損益	—	3,168
その他の包括利益合計	—	※2 △40,420
包括利益	—	※1 495,391
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	—	495,391
少数株主に係る包括利益	—	—

③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	565,295	565,295
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	565,295	565,295
<b>資本剰余金</b>		
前期末残高	376,857	376,857
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	376,857	376,857
<b>利益剰余金</b>		
前期末残高	4,733,090	5,259,040
当期変動額		
剰余金の配当	△99,066	△147,448
当期純利益	969,513	535,812
自己株式の売却	△344,496	—
当期変動額合計	525,950	388,363
当期末残高	5,259,040	5,647,404
<b>自己株式</b>		
前期末残高	△726,163	△3,452
当期変動額		
自己株式の取得	△2,875	△473
自己株式の売却	725,585	—
当期変動額合計	722,710	△473
当期末残高	△3,452	△3,926
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	4,949,080	6,197,740
当期変動額		
剰余金の配当	△99,066	△147,448
当期純利益	969,513	535,812
自己株式の取得	△2,875	△473
自己株式の売却	381,089	—
当期変動額合計	1,248,660	387,889
当期末残高	6,197,740	6,585,630

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金		
前期末残高	3,757	111,062
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	107,305	△43,589
当期変動額合計	107,305	△43,589
当期末残高	111,062	67,473
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	△7,454	△3,855
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,599	3,168
当期変動額合計	3,599	3,168
当期末残高	△3,855	△686
その他の包括利益累計額合計		
前期末残高	△3,697	107,206
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	110,904	△40,420
当期変動額合計	110,904	△40,420
当期末残高	107,206	66,786
少数株主持分		
前期末残高	143,478	—
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△143,478	—
当期変動額合計	△143,478	—
当期末残高	—	—
純資産合計		
前期末残高	5,088,860	6,304,947
当期変動額		
剰余金の配当	△99,066	△147,448
当期純利益	969,513	535,812
自己株式の取得	△2,875	△473
自己株式の売却	381,089	—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△32,573	△40,420
当期変動額合計	1,216,087	347,468
当期末残高	6,304,947	6,652,416

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	1,752,811	1,115,971
減価償却費	151,291	172,407
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	53,921	9,919
負ののれん償却額	△15,969	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△21,535	△46,354
受取利息及び受取配当金	△16,300	△20,000
支払利息	116,742	84,776
社債発行費償却	6,074	2,104
社債償還損	38,109	—
有形固定資産売却損益 (△は益)	△1,905	—
有形固定資産除却損	7,735	4,135
無形固定資産除却損	6,201	—
投資有価証券売却損益 (△は益)	△7	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	8,430	—
確定拠出年金過去勤務債務修正額	—	△54,410
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,050,915	1,726,984
たな卸資産の増減額 (△は増加)	590,910	178,083
未成工事受入金及び前受金の増減額 (△は減少)	△314,722	△318,669
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,512,481	△3,762,238
未払消費税等の増減額 (△は減少)	172,567	△187,879
その他	△21,013	△163,561
小計	3,974,906	△1,258,730
利息及び配当金の受取額	16,705	20,076
利息の支払額	△117,372	△84,533
法人税等の支払額	△273,458	△1,102,911
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,600,780	△2,426,099
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	200,000	100,000
定期預金の預入による支出	△200,000	△100,000
投資有価証券の売却による収入	39	—
投資有価証券の取得による支出	△45,850	△97,153
子会社株式の取得による支出	△150,720	—
有形固定資産の売却による収入	2,954	504
有形固定資産の取得による支出	△45,544	△86,271
無形固定資産の取得による支出	△6,880	△30,067
貸付金の回収による収入	2,974	6,250
貸付けによる支出	△20,500	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△263,527	△206,738

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△200,000	100,000
長期借入れによる収入	1,150,000	900,000
長期借入金の返済による支出	△1,853,840	△1,951,640
社債の発行による収入	785,627	538,725
社債の償還による支出	△1,623,992	△95,000
自己株式の売却による収入	381,089	—
自己株式の取得による支出	—	△473
リース債務の返済による支出	△30,409	△44,754
配当金の支払額	△98,998	△147,518
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,490,523	△700,661
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,846,729	△3,333,499
現金及び現金同等物の期首残高	3,577,494	5,424,224
現金及び現金同等物の期末残高	* 5,424,224	* 2,090,724

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

項目	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1. 連結の範囲に関する事項	子会社はすべて連結されております。	同左
2. 持分法の適用に関する事項	当該連結子会社は、アールシーアイ・セキジュ株式会社の1社であります。	同左
3. 連結子会社の事業年度等に関する事項	持分法適用の非連結子会社及び関連会社はありません。	同左
4. 会計処理基準に関する事項 (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法	すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。	同左
	有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）	有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 同左
	時価のないもの 移動平均法による原価法	時価のないもの 同左
	デリバティブ 時価法	デリバティブ 同左
	たな卸資産 未成工事支出金	たな卸資産 未成工事支出金
	個別法による原価法	同左
	その他たな卸資産 主として移動平均法による原価法	その他たな卸資産 同左
	(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)	

項目	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法	<p>有形固定資産（リース資産を除く） 建物（附属設備を除く） 定額法 その他の有形固定資産 定率法 なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物及び構築物 3年～50年 機械装置及び運搬具 2年～10年</p> <p>無形固定資産（リース資産を除く） 自社利用のソフトウェア 社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法 その他の無形固定資産 定額法</p> <p>リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	<p>有形固定資産（リース資産を除く） 建物（附属設備を除く） 同左 その他の有形固定資産 同左</p> <p>無形固定資産（リース資産を除く） 自社利用のソフトウェア 同左 その他の無形固定資産 同左</p> <p>リース資産 同左</p>
(3) 重要な繰延資産の処理方法	<p>社債発行費 社債の償還までの期間にわたり定額法により償却しております。</p>	<p>社債発行費 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
(4) 重要な引当金の計上基準	<p>貸倒引当金</p> <p>売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>退職給付引当金</p> <p>従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。なお、会計基準変更時差異（573,860千円）については、15年による按分額を費用処理しております。数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。</p> <p>（会計方針の変更）</p> <p>当連結会計年度より、「「退職給付に係る会計基準」の一部改正（その3）」（企業会計基準第19号 平成20年7月31日）を適用しております。</p> <p>なお、これによる営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響はありません。</p>	<p>貸倒引当金</p> <p>同左</p> <p>退職給付引当金</p> <p>同左</p> <hr/>

項目	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
(5) 重要な収益及び費用の計上基準	<p>完成工事高及び完成工事原価の計上基準</p> <p>当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。</p> <p>（会計方針の変更）</p> <p>請負工事に係る収益の計上基準については、従来、請負金額1億円以上かつ工期1年以上の工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を当連結会計年度より適用し、当連結会計年度に着手した工事契約から、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。</p> <p>これにより、当連結会計年度の売上高は629,443千円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ121,318千円増加しております。</p>	<p>完成工事高及び完成工事原価の計上基準</p> <p>同左</p> <hr/>
(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準	<p>外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p>	<p>同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
(7) 重要なヘッジ会計の方法	<p>ヘッジ会計の方法</p> <p>主として繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、為替予約取引については、振当処理の要件を満たしている場合は振当処理を採用しており、金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たしている場合は、特例処理を採用しております。</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>ヘッジ手段 為替予約・金利スワップ取引</p> <p>ヘッジ対象 外貨建金銭債務・変動金利の借入金</p> <p>ヘッジ方針</p> <p>為替変動・金利変動のリスクを回避し、安定した収益を確保するためにデリバティブ取引を行っており、投機的目的とする取引は行っておりません。なお、取引については各決裁権限者を定めた社内規程に基づき決裁をしており、リスク管理についてはすべて経理部門で行っております。</p> <p>ヘッジ有効性評価の方法</p> <p>ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。又、金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たしているものに限定することで有効性の評価としております。</p>	<p>ヘッジ会計の方法</p> <p>同左</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>ヘッジ手段 同左</p> <p>ヘッジ対象 同左</p> <p>ヘッジ方針 同左</p> <p>ヘッジ有効性評価の方法 同左</p>
(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	<p>_____</p>	<p>手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。</p>
(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項	<p>消費税等の会計処理</p> <p>税抜方式によっております。</p> <p>該当事項はありません。</p> <p>_____</p> <p>負ののれんについては、発生時に一括して償却しております。</p> <p>_____</p> <p>手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。</p> <p>_____</p>	<p>消費税等の会計処理</p> <p>同左</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>
5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	<p>_____</p>	<p>_____</p>
6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項	<p>_____</p>	<p>_____</p>
7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	<p>_____</p>	<p>_____</p>

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
—————	<p>(資産除去債務に関する会計基準の適用)</p> <p>当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年 3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年 3月31日)を適用しております。</p> <p>これによる営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響はありません。</p>

【表示方法の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
—————	<p>(連結損益計算書)</p> <p>当連結会計年度より、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年 3月24日内閣府令第5号)を適用し、「少数株主損益調整前当期純利益」の科目で表示しております。</p>

【追加情報】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
—————	<p>当連結会計年度より、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年 6月30日)を適用しております。ただし、「その他の包括利益累計額」及び「その他の包括利益累計額合計」の前連結会計年度の金額は、「評価・換算差額等」及び「評価・換算差額等合計」の金額を記載しております。</p>

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)																																																																										
<p>※1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">1,479,744千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">4,020,468</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,500,213</td> </tr> </table> <p>(2) 上記に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1年内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">925,800千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,405,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,330,800</td> </tr> </table> <p>2. コミットメントライン契約</p> <p>当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行とコミットメントライン契約（特定融資枠契約）を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">コミットメントラインの総額</td> <td style="text-align: right;">1,000,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">—</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,000,000</td> </tr> </table> <p>3. 偶発債務</p> <p style="padding-left: 20px;">社債の債務履行引受契約に係る偶発債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第12回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">180,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第13回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">50,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第14回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">100,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第15回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">140,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第16回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">160,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第17回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">90,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第18回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">180,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第19回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">180,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,080,000</td> </tr> </table>	建物及び構築物	1,479,744千円	土地	4,020,468	計	5,500,213	1年内返済予定の長期借入金	925,800千円	長期借入金	1,405,000	計	2,330,800	コミットメントラインの総額	1,000,000千円	借入実行残高	—	差引額	1,000,000	㈱ケー・エフ・シー第12回無担保社債	180,000千円	㈱ケー・エフ・シー第13回無担保社債	50,000	㈱ケー・エフ・シー第14回無担保社債	100,000	㈱ケー・エフ・シー第15回無担保社債	140,000	㈱ケー・エフ・シー第16回無担保社債	160,000	㈱ケー・エフ・シー第17回無担保社債	90,000	㈱ケー・エフ・シー第18回無担保社債	180,000	㈱ケー・エフ・シー第19回無担保社債	180,000	合計	1,080,000	<p>※1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">1,438,947千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">4,020,468</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,459,416</td> </tr> </table> <p>(2) 上記に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">45,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1年内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">705,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,170,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,920,000</td> </tr> </table> <p>2. コミットメントライン契約</p> <p>当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行とコミットメントライン契約（特定融資枠契約）を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">コミットメントラインの総額</td> <td style="text-align: right;">1,000,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">100,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">900,000</td> </tr> </table> <p>3. 偶発債務</p> <p style="padding-left: 20px;">社債の債務履行引受契約に係る偶発債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第12回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">60,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第13回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">30,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第14回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">60,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第15回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">100,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第16回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">120,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第17回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">70,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第18回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">140,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第19回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">140,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">720,000</td> </tr> </table>	建物及び構築物	1,438,947千円	土地	4,020,468	計	5,459,416	短期借入金	45,000千円	1年内返済予定の長期借入金	705,000	長期借入金	1,170,000	計	1,920,000	コミットメントラインの総額	1,000,000千円	借入実行残高	100,000	差引額	900,000	㈱ケー・エフ・シー第12回無担保社債	60,000千円	㈱ケー・エフ・シー第13回無担保社債	30,000	㈱ケー・エフ・シー第14回無担保社債	60,000	㈱ケー・エフ・シー第15回無担保社債	100,000	㈱ケー・エフ・シー第16回無担保社債	120,000	㈱ケー・エフ・シー第17回無担保社債	70,000	㈱ケー・エフ・シー第18回無担保社債	140,000	㈱ケー・エフ・シー第19回無担保社債	140,000	合計	720,000
建物及び構築物	1,479,744千円																																																																										
土地	4,020,468																																																																										
計	5,500,213																																																																										
1年内返済予定の長期借入金	925,800千円																																																																										
長期借入金	1,405,000																																																																										
計	2,330,800																																																																										
コミットメントラインの総額	1,000,000千円																																																																										
借入実行残高	—																																																																										
差引額	1,000,000																																																																										
㈱ケー・エフ・シー第12回無担保社債	180,000千円																																																																										
㈱ケー・エフ・シー第13回無担保社債	50,000																																																																										
㈱ケー・エフ・シー第14回無担保社債	100,000																																																																										
㈱ケー・エフ・シー第15回無担保社債	140,000																																																																										
㈱ケー・エフ・シー第16回無担保社債	160,000																																																																										
㈱ケー・エフ・シー第17回無担保社債	90,000																																																																										
㈱ケー・エフ・シー第18回無担保社債	180,000																																																																										
㈱ケー・エフ・シー第19回無担保社債	180,000																																																																										
合計	1,080,000																																																																										
建物及び構築物	1,438,947千円																																																																										
土地	4,020,468																																																																										
計	5,459,416																																																																										
短期借入金	45,000千円																																																																										
1年内返済予定の長期借入金	705,000																																																																										
長期借入金	1,170,000																																																																										
計	1,920,000																																																																										
コミットメントラインの総額	1,000,000千円																																																																										
借入実行残高	100,000																																																																										
差引額	900,000																																																																										
㈱ケー・エフ・シー第12回無担保社債	60,000千円																																																																										
㈱ケー・エフ・シー第13回無担保社債	30,000																																																																										
㈱ケー・エフ・シー第14回無担保社債	60,000																																																																										
㈱ケー・エフ・シー第15回無担保社債	100,000																																																																										
㈱ケー・エフ・シー第16回無担保社債	120,000																																																																										
㈱ケー・エフ・シー第17回無担保社債	70,000																																																																										
㈱ケー・エフ・シー第18回無担保社債	140,000																																																																										
㈱ケー・エフ・シー第19回無担保社債	140,000																																																																										
合計	720,000																																																																										

## (連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
※1. 一般管理費に含まれる研究開発費 <div style="text-align: right;">70,675千円</div>	※1. 一般管理費に含まれる研究開発費 <div style="text-align: right;">110,364千円</div>
※2. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。 機械装置及び運搬具 <span style="float: right;">1,975千円</span>	—————
※3. 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。 機械装置及び運搬具 <span style="float: right;">69千円</span>	—————
※4. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。 建物及び構築物 <span style="float: right;">1,000千円</span> 機械装置及び運搬具 <span style="float: right;">5,782</span> 工具、器具及び備品 <span style="float: right;">952</span> 特許権 <span style="float: right;">4,516</span> その他 <span style="float: right;">1,685</span>	※4. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。 建物及び構築物 <span style="float: right;">748千円</span> 機械装置及び運搬具 <span style="float: right;">3,129</span> 工具、器具及び備品 <span style="float: right;">258</span>
<div style="text-align: right;">計 <span style="float: right;">13,936</span></div>	<div style="text-align: right;">計 <span style="float: right;">4,135</span></div>

## (連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

## ※1 当連結会計年度の直前連結会計年度における包括利益

親会社株主に係る包括利益 1,080,418千円少数株主に係る包括利益 23,211


---

 計 1,103,629

## ※2 当連結会計年度の直前連結会計年度におけるその他の包括利益

 その他有価証券評価差額金 107,305千円

 繰延ヘッジ損益 3,599


---

 計 110,904

## (連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数 (株)	当連結会計年度増 加株式数 (株)	当連結会計年度減 少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	7,378,050	—	—	7,378,050
合計	7,378,050	—	—	7,378,050
自己株式				
普通株式 (注)	773,615	5,000	773,000	5,615
合計	773,615	5,000	773,000	5,615

(注) 1. 自己株式の数の増加は、担保権の実行による増加分であります。

2. 自己株式の数の減少は、売却による減少分であります。

## 2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

## 3. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月19日 定時株主総会	普通株式	99,066	15	平成21年3月31日	平成21年6月22日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月18日 定時株主総会	普通株式	147,448	利益剰余金	20	平成22年3月31日	平成22年6月21日

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数 (株)	当連結会計年度増 加株式数 (株)	当連結会計年度減 少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	7,378,050	—	—	7,378,050
合計	7,378,050	—	—	7,378,050
自己株式				
普通株式 (注)	5,615	979	—	6,594
合計	5,615	979	—	6,594

(注) 自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加979株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年6月18日 定時株主総会	普通株式	147,448	20	平成22年3月31日	平成22年6月21日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年6月17日 定時株主総会	普通株式	110,571	利益剰余金	15	平成23年3月31日	平成23年6月20日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年3月31日現在)	※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年3月31日現在)
現金及び預金勘定 3,923,585千円	現金及び預金勘定 2,090,724千円
MMF 638	現金及び現金同等物 2,090,724
譲渡性預金 1,200,000	
指定金銭信託 300,000	
現金及び現金同等物 5,424,224	

## (リース取引関係)

項目	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)																																																
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引	<p>リース資産の内容</p> <p>(ア) 有形固定資産 機械装置及び運搬具、工具器具備品であります。</p> <p>(イ) 無形固定資産 ソフトウェアであります。</p> <p>リース資産の減価償却の方法 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。</p> <p>なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p>	<p>リース資産の内容</p> <p>(ア) 有形固定資産 同左</p> <p>(イ) 無形固定資産 同左</p> <p>リース資産の減価償却の方法 同左</p>																																																
	<p>1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p>	<p>1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p>																																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額</th> <th>減価償却累計額相当額</th> <th>期末残高相当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>千円</td> <td>千円</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td>37,548</td> <td>21,903</td> <td>15,645</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>44,347</td> <td>29,696</td> <td>14,651</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td>39,720</td> <td>32,668</td> <td>7,052</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>121,615</td> <td>84,267</td> <td>37,348</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額		千円	千円	千円	機械装置及び運搬具	37,548	21,903	15,645	工具、器具及び備品	44,347	29,696	14,651	ソフトウェア	39,720	32,668	7,052	合計	121,615	84,267	37,348	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額</th> <th>減価償却累計額相当額</th> <th>期末残高相当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>千円</td> <td>千円</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td>37,548</td> <td>29,412</td> <td>8,135</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>30,146</td> <td>21,658</td> <td>8,487</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td>3,240</td> <td>2,916</td> <td>324</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>70,934</td> <td>53,987</td> <td>16,947</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額		千円	千円	千円	機械装置及び運搬具	37,548	29,412	8,135	工具、器具及び備品	30,146	21,658	8,487	ソフトウェア	3,240	2,916	324	合計	70,934	53,987	16,947
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額																																															
	千円	千円	千円																																															
機械装置及び運搬具	37,548	21,903	15,645																																															
工具、器具及び備品	44,347	29,696	14,651																																															
ソフトウェア	39,720	32,668	7,052																																															
合計	121,615	84,267	37,348																																															
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額																																															
	千円	千円	千円																																															
機械装置及び運搬具	37,548	29,412	8,135																																															
工具、器具及び備品	30,146	21,658	8,487																																															
ソフトウェア	3,240	2,916	324																																															
合計	70,934	53,987	16,947																																															
	<p>(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p>	<p>同左</p>																																																
	<p>2. 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額</p> <table> <tr> <td>1年内</td> <td>20,401千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>16,947</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37,348</td> </tr> </table>	1年内	20,401千円	1年超	16,947	計	37,348	<p>2. 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額</p> <table> <tr> <td>1年内</td> <td>11,663千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>5,283</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>16,947</td> </tr> </table>	1年内	11,663千円	1年超	5,283	計	16,947																																				
1年内	20,401千円																																																	
1年超	16,947																																																	
計	37,348																																																	
1年内	11,663千円																																																	
1年超	5,283																																																	
計	16,947																																																	
	<p>(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p>	<p>同左</p>																																																

項目	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
	3. 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額 支払リース料                    25,625千円 減価償却費相当額              25,625 4. 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。	3. 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額 支払リース料                    20,401千円 減価償却費相当額              20,401 4. 減価償却費相当額の算定方法 同左

(金融商品関係)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い短期的な金融商品などに限定し、また、銀行等金融機関からの借入及び社債発行により資金を調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形、売掛金及び完成工事未収入金等に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。

投資有価証券は主として株式であり、上場株式については、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、四半期ごとに時価を把握することにより管理を行っております。

営業債務である支払手形、買掛金及び工事未払金等は、1年以内の支払期日であります。

借入金及び社債の用途は運転資金及び設備投資であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。なお、デリバティブは社内規程に従い、実需の範囲で行うこととしております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	連結貸借対照表 計上額(*1) (千円)	時価(*1) (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	3,923,585	3,923,585	—
(2) 受取手形	3,639,944	3,639,944	—
(3) 売掛金	2,533,921	2,533,921	—
(4) 完成工事未収入金	2,632,166	2,632,166	—
(5) 有価証券	1,500,638	1,500,638	—
(6) 未収入金(その他)	433,182	433,182	—
(7) 投資有価証券	762,922	762,922	—
(8) 長期預金	300,000	299,490	△510
(9) 支払手形	(7,474,424)	(7,474,424)	—
(10) 買掛金	(993,575)	(993,575)	—
(11) 工事未払金	(1,790,362)	(1,790,362)	—
(12) 短期借入金	(250,000)	(250,000)	—
(13) 長期借入金	(4,253,600)	(4,134,051)	(△119,548)
(14) 社債	(300,000)	(298,517)	(△1,482)
(15) 未払法人税等	(684,278)	(684,278)	—
(16) デリバティブ取引(*2) ヘッジ会計が適用されている もの	(6,490)	(6,490)	—

(\*1)負債で計上されているものについては、( )で示しております。

(\*2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形、(3) 売掛金、(4) 完成工事未収入金及び(6) 未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 有価証券及び(7) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、譲渡性預金・合同運用指定金銭信託等についてはこれらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(8) 長期預金

長期預金の時価については、期間に基づく区分ごとに、新規に預金を行ったときに想定される預金金利で割り引いて算定する方法によっております。

(9) 支払手形、(10) 買掛金、(11) 工事未払金、(12) 短期借入金及び(15) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(13) 長期借入金

長期借入金のうち固定金利によるものは、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利によるものは、金利スワップの特例処理の対象となっているものを除き、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております（「デリバティブ取引関係」注記参照）。金利スワップの特例処理の対象となっている長期借入金については、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(14) 社債

当社の発行する社債の時価は、市場価格がないため、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(16) デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額（千円）
非上場株式	9,570

投資有価証券のうち非上場株式については、市場価格が無く、時価を把握することが極めて困難と認められることから上表には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
現金及び預金	3,923,585	—	—	—	—	—
受取手形、売掛金及び完成工事未収入金	8,806,032	—	—	—	—	—
有価証券						
その他有価証券のうち満期があるもの						
(1) 債券	—	—	—	—	—	—
(2) その他	1,500,638	—	—	—	—	—
未収入金（その他）	433,182	—	—	—	—	—
長期預金	—	100,000	200,000	—	—	—

(注4) 社債、長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「社債明細表」及び「借入金等明細表」を参照ください。

(追加情報)

当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 平成20年3月10日）及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日）を適用しております。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い短期的な金融商品などに限定し、また、銀行等金融機関からの借入及び社債発行により資金を調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形、売掛金及び完成工事未収入金等に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。

投資有価証券は主として株式であり、上場株式については、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、四半期ごとに時価を把握することにより管理を行っております。

営業債務である支払手形、買掛金及び工事未払金及び未払金等は、1年以内の支払期日であります。

借入金及び社債の用途は運転資金及び設備投資であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。なお、デリバティブは社内規程に従い、実需の範囲で行うこととしております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	連結貸借対照表 計上額(*1) (千円)	時価(*1) (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,090,724	2,090,724	—
(2) 受取手形	2,436,758	2,436,758	—
(3) 売掛金	2,777,184	2,777,184	—
(4) 完成工事未収入金	1,862,284	1,862,284	—
(5) 未収入金(その他)	466,970	466,970	—
(6) 投資有価証券	809,047	809,047	—
(7) 長期預金	300,000	300,499	499
(8) 支払手形	(4,816,849)	(4,816,849)	—
(9) 買掛金	(947,172)	(947,172)	—
(10) 工事未払金	(750,103)	(750,103)	—
(11) 短期借入金	(350,000)	(350,000)	—
(12) 長期借入金	(3,201,960)	(3,240,862)	(38,902)
(13) 社債	(755,000)	(753,371)	(△1,628)
(14) 未払金(その他)	(349,620)	(349,620)	—
(15) デリバティブ取引(*2) ヘッジ会計が適用されている もの	(1,156)	(1,156)	—

(\*1)負債で計上されているものについては、( )で示しております。

(\*2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形、(3) 売掛金、(4) 完成工事未収入金及び(5) 未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(6) 投資有価証券

時価について、株式は取引所の価格によっております。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(7) 長期預金

長期預金の時価については、期間に基づく区分ごとに、新規に預金を行ったときに想定される預金金利で割り引いて算定する方法によっております。

(8) 支払手形、(9) 買掛金、(10) 工事未払金、(11) 短期借入金及び(14) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(12) 長期借入金

長期借入金のうち固定金利によるものは、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利によるものは、金利スワップの特例処理の対象となっているものを除き、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております（「デリバティブ取引関係」注記参照）。金利スワップの特例処理の対象となっている長期借入金については、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(13) 社債

当社の発行する社債の時価は、市場価格がないため、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(15) デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額（千円）
非上場株式	9,570

投資有価証券のうち非上場株式については、市場価格が無く、時価を把握することが極めて困難と認められることから上表には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
現金及び預金	2,090,724	—	—	—	—	—
受取手形、売掛金及び完成工事未収入金	7,076,226	—	—	—	—	—
未収入金（その他）	466,970	—	—	—	—	—
長期預金	—	200,000	100,000	—	—	—

(注4) 社債、長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「社債明細表」及び「借入金等明細表」を参照ください。

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成22年3月31日)

1. 売買目的有価証券  
該当事項はありません。
2. 満期保有目的の債券  
該当事項はありません。
3. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	640,169	457,057	183,111
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	122,752	142,129	△19,377
合計		762,922	599,187	163,734

(注1) 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額については減損処理を行っております。

(注2) 非上場株式(連結貸借対照表計上額9,570千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

4. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	39	7	—

5. 減損処理を行った有価証券  
当連結会計年度において、非上場株式について、8,430千円の減損処理を行っております。

当連結会計年度(平成23年3月31日)

1. 売買目的有価証券  
該当事項はありません。
2. 満期保有目的の債券  
該当事項はありません。
3. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	629,135	474,837	154,298
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	179,912	221,504	△41,592
合計		809,047	696,341	112,706

(注1) 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額については減損処理を行っております。

(注2) 非上場株式(連結貸借対照表計上額9,570千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

4. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)  
該当事項はありません。

5. 減損処理を行った有価証券  
該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度 (平成22年 3月31日)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引  
該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引  
金利関係

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等の うち1年超 (千円)	時価 (千円)
原則的処理方法 (注) 1	金利スワップ取引 固定支払・変動受取	長期借入金	525,000	175,000	△6,490
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 固定支払・変動受取	長期借入金	2,085,400	1,397,600	(注) 2

(注) 1. 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(注) 2. 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価の記載を省略しております。

当連結会計年度 (平成23年 3月31日)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引  
該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引  
金利関係

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等の うち1年超 (千円)	時価 (千円)
原則的処理方法 (注) 1	金利スワップ取引 固定支払・変動受取	長期借入金	175,000	—	△1,156
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 固定支払・変動受取	長期借入金	1,951,000	1,270,800	(注) 2

(注) 1. 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(注) 2. 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価の記載を省略しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、平成20年2月1日に退職一時金制度及び適格退職年金制度を廃止して、確定拠出年金制度及び確定給付年金制度を導入致しました。

また、総合設立型の厚生年金基金制度に加入しており、当初の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算できないため、当基金への拠出額を退職給付費用として処理しております。

なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

	前連結会計年度 (平成22年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成23年3月31日現在)
年金資産の額	51,827,122 千円	61,307,758 千円
年金財政計算上の給付債務の額	82,178,489	76,614,148
差引額	△30,351,366	△15,306,389

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

前連結会計年度 2.4% (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

当連結会計年度 2.4% (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

(3) 補足説明

上記(1)主な要因

前連結会計年度 年金財政計算上の過去勤務債務残高 15,964,314千円

当連結会計年度 年金財政計算上の過去勤務債務残高 14,826,310千円

本制度における過去勤務債務の償却費用は期間20年の元利均等償却であります。

当社グループの、当期の連結財務諸表上、特別掛金を費用処理しております。

前連結会計年度 32,248千円

当連結会計年度 33,426千円

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

2. 退職給付債務に関する事項

前連結会計年度 (平成22年3月31日)		当連結会計年度 (平成23年3月31日)	
イ. 退職給付債務	△722,158千円	イ. 退職給付債務	△742,481千円
ロ. 年金資産	520,060	ロ. 年金資産	556,920
ハ. 未積立退職給付債務(イ+ロ)	△202,098	ハ. 未積立退職給付債務(イ+ロ)	△185,561
ニ. 会計基準変更時差異の未処理額	110,721	ニ. 会計基準変更時差異の未処理額	88,577
ホ. 未認識数理計算上の差異	9,845	ホ. 未認識数理計算上の差異	5,532
ヘ. 連結貸借対照表計上額純額 (ハ+ニ+ホ)	△81,531	ヘ. 連結貸借対照表計上額純額 (ハ+ニ+ホ)	△91,450
ト. 退職給付引当金	△81,531	ト. 退職給付引当金	△91,450

3. 退職給付費用に関する事項

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
イ. 勤務費用	142,161千円	イ. 勤務費用	138,200千円
ロ. 利息費用	14,054	ロ. 利息費用	14,443
ハ. 期待運用収益	—	ハ. 期待運用収益	—
ニ. 会計基準変更時差異の費用処理額	22,144	ニ. 会計基準変更時差異の費用処理額	22,144
ホ. 数理計算上の差異の費用処理額	12,741	ホ. 数理計算上の差異の費用処理額	7,875
ヘ. 確定拠出年金掛金	31,072	ヘ. 確定拠出年金掛金	28,654
ト. 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ+ヘ)	222,173	ト. 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ+ヘ)	211,318

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

前連結会計年度 (平成22年3月31日)		当連結会計年度 (平成23年3月31日)	
イ. 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	イ. 退職給付見込額の期間配分方法	同左
ロ. 割引率	2.0%	ロ. 割引率	同左
ハ. 期待運用収益率	0%	ハ. 期待運用収益率	同左
ニ. 数理計算上の差異の処理年数	11年 (発生時の従業員の 平均残存勤務期間以 内の一定の年数によ る定額法により、翌 連結会計年度から費 用処理することとし ております。)	ニ. 数理計算上の差異の処理年数	同左
ホ. 会計基準変更時差異の処理年数	15年	ホ. 会計基準変更時差異の処理年数	同左

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

## (税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)																																																																																																
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未払賞与</td><td style="text-align: right;">70,023千円</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">52,872</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">123,743</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">4,449</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権</td><td style="text-align: right;">12,383</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">26,730</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">28,946</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">7,741</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;"><u>326,890</u></td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;"><u>△47,831</u></td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;"><u>279,058</u></td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;"><u>△52,672</u></td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;"><u>△52,672</u></td></tr> <tr><td>繰延税金資産（負債）の純額</td><td style="text-align: right;"><u>226,386</u></td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産—繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">139,922千円</td></tr> <tr><td>固定資産—繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">86,464</td></tr> </table> <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.6%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">2.5</td></tr> <tr><td>永久に益金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">△0.1</td></tr> <tr><td>評価性引当額の増加</td><td style="text-align: right;">0.2</td></tr> <tr><td>住民税均等割額</td><td style="text-align: right;">0.3</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">△0.1</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;"><u>43.4</u></td></tr> </table>	未払賞与	70,023千円	未払事業税	52,872	退職給付引当金	123,743	役員退職慰労引当金	4,449	ゴルフ会員権	12,383	貸倒引当金	26,730	投資有価証券評価損	28,946	その他	7,741	繰延税金資産小計	<u>326,890</u>	評価性引当額	<u>△47,831</u>	繰延税金資産合計	<u>279,058</u>	その他有価証券評価差額金	<u>△52,672</u>	繰延税金負債合計	<u>△52,672</u>	繰延税金資産（負債）の純額	<u>226,386</u>	流動資産—繰延税金資産	139,922千円	固定資産—繰延税金資産	86,464	法定実効税率	40.6%	(調整)		永久に損金に算入されない項目	2.5	永久に益金に算入されない項目	△0.1	評価性引当額の増加	0.2	住民税均等割額	0.3	その他	△0.1	税効果会計適用後の法人税等の負担率	<u>43.4</u>	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未払賞与</td><td style="text-align: right;">43,124千円</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">2,179</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">88,486</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">4,449</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権</td><td style="text-align: right;">12,383</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">29,937</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">28,946</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">61,196</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;"><u>270,703</u></td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;"><u>△112,831</u></td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;"><u>157,871</u></td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;"><u>△45,232</u></td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;"><u>△45,232</u></td></tr> <tr><td>繰延税金資産（負債）の純額</td><td style="text-align: right;"><u>112,638</u></td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産—繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">67,191千円</td></tr> <tr><td>固定資産—繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">45,447</td></tr> </table> <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.6%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">3.4</td></tr> <tr><td>永久に益金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">△0.3</td></tr> <tr><td>評価性引当額の増加</td><td style="text-align: right;">5.8</td></tr> <tr><td>住民税均等割額</td><td style="text-align: right;">0.5</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">2.0</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;"><u>52.0</u></td></tr> </table>	未払賞与	43,124千円	未払事業税	2,179	退職給付引当金	88,486	役員退職慰労引当金	4,449	ゴルフ会員権	12,383	貸倒引当金	29,937	投資有価証券評価損	28,946	その他	61,196	繰延税金資産小計	<u>270,703</u>	評価性引当額	<u>△112,831</u>	繰延税金資産合計	<u>157,871</u>	その他有価証券評価差額金	<u>△45,232</u>	繰延税金負債合計	<u>△45,232</u>	繰延税金資産（負債）の純額	<u>112,638</u>	流動資産—繰延税金資産	67,191千円	固定資産—繰延税金資産	45,447	法定実効税率	40.6%	(調整)		永久に損金に算入されない項目	3.4	永久に益金に算入されない項目	△0.3	評価性引当額の増加	5.8	住民税均等割額	0.5	その他	2.0	税効果会計適用後の法人税等の負担率	<u>52.0</u>
未払賞与	70,023千円																																																																																																
未払事業税	52,872																																																																																																
退職給付引当金	123,743																																																																																																
役員退職慰労引当金	4,449																																																																																																
ゴルフ会員権	12,383																																																																																																
貸倒引当金	26,730																																																																																																
投資有価証券評価損	28,946																																																																																																
その他	7,741																																																																																																
繰延税金資産小計	<u>326,890</u>																																																																																																
評価性引当額	<u>△47,831</u>																																																																																																
繰延税金資産合計	<u>279,058</u>																																																																																																
その他有価証券評価差額金	<u>△52,672</u>																																																																																																
繰延税金負債合計	<u>△52,672</u>																																																																																																
繰延税金資産（負債）の純額	<u>226,386</u>																																																																																																
流動資産—繰延税金資産	139,922千円																																																																																																
固定資産—繰延税金資産	86,464																																																																																																
法定実効税率	40.6%																																																																																																
(調整)																																																																																																	
永久に損金に算入されない項目	2.5																																																																																																
永久に益金に算入されない項目	△0.1																																																																																																
評価性引当額の増加	0.2																																																																																																
住民税均等割額	0.3																																																																																																
その他	△0.1																																																																																																
税効果会計適用後の法人税等の負担率	<u>43.4</u>																																																																																																
未払賞与	43,124千円																																																																																																
未払事業税	2,179																																																																																																
退職給付引当金	88,486																																																																																																
役員退職慰労引当金	4,449																																																																																																
ゴルフ会員権	12,383																																																																																																
貸倒引当金	29,937																																																																																																
投資有価証券評価損	28,946																																																																																																
その他	61,196																																																																																																
繰延税金資産小計	<u>270,703</u>																																																																																																
評価性引当額	<u>△112,831</u>																																																																																																
繰延税金資産合計	<u>157,871</u>																																																																																																
その他有価証券評価差額金	<u>△45,232</u>																																																																																																
繰延税金負債合計	<u>△45,232</u>																																																																																																
繰延税金資産（負債）の純額	<u>112,638</u>																																																																																																
流動資産—繰延税金資産	67,191千円																																																																																																
固定資産—繰延税金資産	45,447																																																																																																
法定実効税率	40.6%																																																																																																
(調整)																																																																																																	
永久に損金に算入されない項目	3.4																																																																																																
永久に益金に算入されない項目	△0.3																																																																																																
評価性引当額の増加	5.8																																																																																																
住民税均等割額	0.5																																																																																																
その他	2.0																																																																																																
税効果会計適用後の法人税等の負担率	<u>52.0</u>																																																																																																

(資産除去債務関係)

当連結会計年度末(平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

賃貸等不動産の総額について重要性が乏しいため注記を省略しております。

(追加情報)

当連結会計年度より、「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第20号 平成20年11月28日)及び「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第23号 平成20年11月28日)を適用しております。

当連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

賃貸等不動産の総額について重要性が乏しいため注記を省略しております。

(セグメント情報等)

**【事業の種類別セグメント情報】**

当社の企業集団は、各種あと施工アンカー類の販売・施工、トンネル支保材・防水シートの販売、トンネル内装及び耐震関連工事等を主事業としてトータル的に行っております。

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

上記主事業のセグメント売上高、営業利益及び資産の額は、全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメント資産の金額の合計に占める割合がいずれも90%超であるため、記載を省略しております。

**【所在地別セグメント情報】**

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

本邦の売上高及び資産の金額は、全セグメントの売上高の合計及び全セグメント資産の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、記載を省略しております。

**【海外売上高】**

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

海外売上高は連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

【セグメント情報】

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、日本国内の主要地域に営業拠点を設置し、建設資材の販売・設計・施工及び遮水シート、防水シートの輸入販売・設計・施工等を行っており、経済的特徴が類似している事業を集約した「商品販売事業」「建設工事業」を報告セグメントとしております。

商品販売事業・・・主にロックボルトやあと施工アンカー類に係る物品の販売を行っております。  
建設工事業・・・主にトンネル内装・設備工事・耐震補強工事を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	商品販売	建設工事	計	
売上高				
外部顧客への売上高	13,369,300	16,552,467	29,921,767	29,921,767
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	13,369,300	16,552,467	29,921,767	29,921,767
セグメント利益	1,325,978	465,605	1,791,584	1,791,584
その他の項目				
減価償却費	65,958	85,332	151,291	151,291
受取利息	1,676	2,281	3,958	3,958
支払利息	52,161	64,581	116,742	116,742

(注) 資産についてのセグメント情報は、経営者が経営の意思決定上当該情報を各セグメントに配分していないことから開示しておりません。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	商品販売	建設工事	計	
売上高				
外部顧客への売上高	11,908,994	11,380,358	23,289,353	23,289,353
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	11,908,994	11,380,358	23,289,353	23,289,353
セグメント利益	777,165	310,320	1,087,485	1,087,485
その他の項目				
減価償却費	86,267	86,139	172,407	172,407
受取利息	1,327	1,334	2,662	2,662
支払利息	43,350	41,426	84,776	84,776

(注) 資産についてのセグメント情報は、経営者が経営の意思決定上当該情報を各セグメントに配分していないことから開示しておりません。

**【関連情報】**

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	商品売上高			
	土木資材事業	ファスナー事業	その他	合計
外部顧客への売上高	8,770,796	2,423,516	891,165	12,085,478

（単位：千円）

	完成工事高			
	環境工事	耐震関連工事	その他	合計
外部顧客への売上高	6,194,761	2,646,891	2,362,221	11,203,874

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
中日本高速道路株式会社	2,811,654	建設工事事業

**【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】**

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

**【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】**

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

**【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】**

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

（追加情報）

当連結会計年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有） 割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主	積水樹脂(株)	大阪市北区	12,334	建設及び交通環境資材等の製造・加工・販売	(被所有) 直接 10.5	建設資材の仕入及び販売	建設資材の仕入	583,292	支払手形  買掛金  工事未払金	269,599  408  145,614

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 建設資材の仕入については、市場の実勢価格を勘案して決定しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1株当たり純資産額	855円21銭	902円46銭
1株当たり当期純利益金額	145円36銭	72円68銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	同左

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
当期純利益（千円）	969,513	535,812
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	—
普通株式に係る当期純利益（千円）	969,513	535,812
期中平均株式数（株）	6,669,854	7,372,070

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
株式会社 ケー・エフ・シー	第20回無担 保社債	平成22年 3月25日	(20,000) 100,000	(20,000) 80,000	年0.95	—	平成27年 3月25日
株式会社 ケー・エフ・シー	第21回無担 保社債	平成22年 3月31日	(20,000) 100,000	(20,000) 80,000	年0.77	—	平成27年 3月31日
株式会社 ケー・エフ・シー	第22回無担 保社債	平成22年 3月31日	(20,000) 100,000	(20,000) 80,000	年0.77	—	平成27年 3月31日
株式会社 ケー・エフ・シー	第23回無担 保社債	平成22年 9月30日	(—) —	(40,000) 180,000	年0.67	—	平成27年 9月30日
株式会社 ケー・エフ・シー	第24回無担 保社債	平成22年 9月30日	(—) —	(30,000) 135,000	年0.66	—	平成27年 9月30日
株式会社 ケー・エフ・シー	第25回無担 保社債	平成23年 3月25日	(—) —	(20,000) 100,000	年0.92	—	平成28年 3月25日
株式会社 ケー・エフ・シー	第26回無担 保社債	平成23年 3月31日	(—) —	(20,000) 100,000	年0.77	—	平成28年 3月31日
合計	—	—	(60,000) 300,000	(170,000) 755,000	—	—	—

(注) 1. ( ) 内で内数表示した金額は1年以内に償還されるものであるため、流動負債に計上しております。

2. 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
170,000	170,000	170,000	170,000	75,000

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	250,000	350,000	0.80	—
1年内返済予定の長期借入金	1,880,040	1,527,260	1.73	—
1年内返済予定のリース債務	35,006	47,481	—	—
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	2,373,560	1,674,700	1.97	平成24年～平成28年
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	88,034	97,297	—	平成24年～平成29年
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	4,626,640	3,696,738	—	—

(注) 1. 平均利率は、当期末における借入金の利率を加重平均して算出しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。) の連結決算日後5年間の返済予定額は次のとおりであります。

区分	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
長期借入金(千円)	894,100	520,600	190,000	70,000
リース債務(千円)	44,872	32,038	16,009	3,667

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	第2四半期 自平成22年7月1日 至平成22年9月30日	第3四半期 自平成22年10月1日 至平成22年12月31日	第4四半期 自平成23年1月1日 至平成23年3月31日
売上高(千円)	4,882,176	6,239,960	6,081,368	6,085,847
税金等調整前四半期純利益 金額(千円)	360,494	292,902	217,925	244,648
四半期純利益金額(千円)	208,182	167,135	118,248	42,246
1株当たり四半期純利益金 額(円)	28.24	22.67	16.04	5.73

2 【財務諸表等】  
 (1) 【財務諸表】  
 ① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,208,643	1,901,510
受取手形	3,528,319	2,125,991
売掛金	2,487,447	2,719,552
完成工事未収入金	2,422,234	1,633,998
有価証券	1,500,638	—
商品	767,222	968,855
未成工事支出金	683,236	299,863
前払費用	60,241	65,961
繰延税金資産	131,419	67,199
未収入金	433,182	466,970
その他	34,586	47,291
貸倒引当金	△43,566	△21,463
流動資産合計	15,213,606	10,275,731
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1 2,692,018	※1 2,700,781
減価償却累計額	△1,080,707	△1,138,159
建物（純額）	1,611,311	1,562,621
構築物	※1 169,850	※1 169,850
減価償却累計額	△128,246	△132,784
構築物（純額）	41,603	37,065
機械及び装置	850,288	916,511
減価償却累計額	△798,516	△735,914
機械及び装置（純額）	51,771	180,597
車両運搬具	29,235	29,235
減価償却累計額	△13,973	△23,498
車両運搬具（純額）	15,262	5,736
工具、器具及び備品	101,359	97,319
減価償却累計額	△82,654	△78,850
工具、器具及び備品（純額）	18,704	18,468
土地	※1 4,088,258	※1 4,088,258
リース資産	155,747	216,559
減価償却累計額	△40,326	△82,095
リース資産（純額）	115,420	134,464
有形固定資産合計	5,942,332	6,027,212
無形固定資産		
ソフトウェア	25,796	93,973
リース資産	340	203
その他	14,603	13,500
無形固定資産合計	40,740	107,678

(単位：千円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	772,492	818,617
関係会社株式	218,718	218,718
長期貸付金	14,000	8,000
破産債権・更生債権その他これらに準ずる債権	140,896	110,831
長期前払費用	967	—
繰延税金資産	77,845	45,447
差入保証金	80,251	76,016
長期預金	300,000	300,000
その他	55,070	54,535
貸倒引当金	△161,169	△138,834
投資その他の資産合計	1,499,070	1,493,332
固定資産合計		
	7,482,143	7,628,222
繰延資産		
社債発行費	5,829	14,999
繰延資産合計	5,829	14,999
資産合計		
	22,701,580	17,918,954
負債の部		
流動負債		
支払手形	6,972,944	4,406,580
買掛金	986,422	891,468
工事未払金	1,709,299	731,643
短期借入金	250,000	※1 350,000
1年内返済予定の長期借入金	※1 1,880,040	※1 1,527,260
1年内償還予定の社債	60,000	170,000
リース債務	34,697	46,644
未払金	237,594	349,419
未払費用	205,712	129,373
未払法人税等	634,662	30,992
未払消費税等	143,897	—
未成工事受入金	384,956	45,152
前受金	6,622	11,838
その他	113,793	40,281
流動負債合計	13,620,643	8,730,655
固定負債		
社債	240,000	585,000
長期借入金	※1 2,373,560	※1 1,674,700
リース債務	87,365	95,221
長期未払金	203,143	100,681
退職給付引当金	63,063	77,126
その他	6,990	62,406
固定負債合計	2,974,123	2,595,134
負債合計		
	16,594,766	11,325,790

(単位：千円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	565,295	565,295
資本剰余金		
資本準備金	376,857	376,857
資本剰余金合計	376,857	376,857
利益剰余金		
利益準備金	141,323	141,323
その他利益剰余金		
別途積立金	3,523,000	4,023,000
繰越利益剰余金	1,396,583	1,423,827
利益剰余金合計	5,060,907	5,588,151
自己株式	△3,452	△3,926
株主資本合計	5,999,607	6,526,377
評価・換算差額等		
其他有価証券評価差額金	111,062	67,473
繰延ヘッジ損益	△3,855	△686
評価・換算差額等合計	107,206	66,786
純資産合計	6,106,814	6,593,163
負債純資産合計	22,701,580	17,918,954

## ②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
売上高		
商品売上高	13,433,155	11,606,577
完成工事高	14,317,644	10,573,413
売上高合計	27,750,799	22,179,991
売上原価		
商品売上原価	9,804,621	8,324,963
完成工事原価	12,089,871	8,623,018
売上原価合計	21,894,492	16,947,981
商品売上総利益	3,628,533	3,281,613
完成工事総利益	2,227,773	1,950,395
売上総利益	5,856,307	5,232,009
販売費及び一般管理費		
荷造及び発送費	464,612	529,921
広告宣伝費	9,059	9,989
販売手数料	20,504	34,683
貸倒引当金繰入額	5,234	—
役員報酬	205,821	201,838
給料及び手当	1,603,985	1,460,602
退職給付費用	206,950	203,798
福利厚生費	356,811	346,385
接待交際費	46,703	46,003
旅費及び交通費	247,827	253,961
賃借料	155,642	145,863
減価償却費	134,870	155,707
租税公課	65,695	61,452
その他	※1 563,764	※1 544,697
販売費及び一般管理費合計	4,087,485	3,994,904
営業利益	1,768,821	1,237,105
営業外収益		
受取利息	4,111	2,281
有価証券利息	488	380
受取配当金	12,341	17,337
仕入割引	4,365	3,402
受取家賃	※5 28,182	※5 28,182
技術提供収入	—	14,778
破産債権配当金	2	349
その他	※5 16,977	※5 28,794
営業外収益合計	66,470	95,507
営業外費用		
支払利息	103,210	81,212
社債利息	13,532	3,563
支払手数料	36,105	24,080
その他	13,962	13,852
営業外費用合計	166,811	122,709
経常利益	1,668,481	1,209,903

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	※2 1,975	—
投資有価証券売却益	7	—
損害補償損失引当金戻入益	19,789	—
貸倒引当金戻入額	—	17,223
確定拠出年金過去勤務債務修正額	—	54,410
特別利益合計	21,772	71,633
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	※3 69	—
固定資産除却損	※4 12,251	※4 4,135
投資有価証券評価損	8,430	—
社債償還損	38,109	—
商品補償損失	—	35,911
災害による損失	—	4,779
特別損失合計	58,860	44,827
税引前当期純利益	1,631,393	1,236,709
法人税、住民税及び事業税	719,935	460,124
法人税等調整額	△4,951	101,891
法人税等合計	714,984	562,016
当期純利益	916,408	674,692

【商品売上原価明細書】

項目	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
	金額 (千円)	金額 (千円)
期首商品たな卸高	1,012,968	767,222
当期商品仕入高	9,558,875	8,526,596
計	10,571,843	9,293,819
期末商品たな卸高	767,222	968,855
商品売上原価	9,804,621	8,324,963

【完成工事原価報告書】

項目	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
	金額 (千円)	百分比 (%)	金額 (千円)	百分比 (%)
材料費	6,552,458	54.2	4,078,517	47.3
労務費	—	—	—	—
外注費	4,191,576	34.7	3,335,713	38.7
経費	1,345,835	11.1	1,208,787	14.0
(うち人件費)	(578,846)	(4.8)	(517,947)	(6.0)
合計	12,089,871	100.0	8,623,018	100.0

※原価計算の方法は、実際原価による個別原価計算によっております。

## ③【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	565,295	565,295
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	565,295	565,295
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
前期末残高	376,857	376,857
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	376,857	376,857
<b>資本剰余金合計</b>		
前期末残高	376,857	376,857
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	376,857	376,857
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
前期末残高	141,323	141,323
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	141,323	141,323
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>別途積立金</b>		
前期末残高	3,323,000	3,523,000
当期変動額		
別途積立金の積立	200,000	500,000
当期変動額合計	200,000	500,000
当期末残高	3,523,000	4,023,000
<b>繰越利益剰余金</b>		
前期末残高	1,123,738	1,396,583
当期変動額		
別途積立金の積立	△200,000	△500,000
剰余金の配当	△99,066	△147,448
当期純利益	916,408	674,692
自己株式の売却	△344,496	—
当期変動額合計	272,845	27,244
当期末残高	1,396,583	1,423,827

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<b>利益剰余金合計</b>		
前期末残高	4,588,061	5,060,907
当期変動額		
剰余金の配当	△99,066	△147,448
当期純利益	916,408	674,692
自己株式の売却	△344,496	—
当期変動額合計	472,845	527,244
当期末残高	5,060,907	5,588,151
<b>自己株式</b>		
前期末残高	△726,163	△3,452
当期変動額		
自己株式の取得	△2,875	△473
自己株式の売却	725,585	—
当期変動額合計	722,710	△473
当期末残高	△3,452	△3,926
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	4,804,051	5,999,607
当期変動額		
剰余金の配当	△99,066	△147,448
当期純利益	916,408	674,692
自己株式の取得	△2,875	△473
自己株式の売却	381,089	—
当期変動額合計	1,195,556	526,770
当期末残高	5,999,607	6,526,377
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	3,757	111,062
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	107,305	△43,589
当期変動額合計	107,305	△43,589
当期末残高	111,062	67,473
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
前期末残高	△7,454	△3,855
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,599	3,168
当期変動額合計	3,599	3,168
当期末残高	△3,855	△686
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	△3,697	107,206

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	110,904	△40,420
当期変動額合計	110,904	△40,420
当期末残高	107,206	66,786
純資産合計		
前期末残高	4,800,353	6,106,814
当期変動額		
剰余金の配当	△99,066	△147,448
当期純利益	916,408	674,692
自己株式の取得	△2,875	△473
自己株式の売却	381,089	—
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	110,904	△40,420
当期変動額合計	1,306,460	486,349
当期末残高	6,106,814	6,593,163

【重要な会計方針】

項目	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法 (2) その他有価証券 時価のあるもの 期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） 時価のないもの 移動平均法による原価法	(1) 子会社株式及び関連会社株式 同左 (2) その他有価証券 時価のあるもの 同左  時価のないもの 同左
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	デリバティブ 時価法	デリバティブ 同左
3. たな卸資産の評価基準及び評価方法	(1) 商品 移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定） (2) 未成工事支出金 個別法による原価法	(1) 商品 同左  (2) 未成工事支出金 同左
4. 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 建物（附属設備を除く）は定額法、その他の有形固定資産については定率法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物及び構築物 3年～50年 機械装置及び車両運搬具 2年～10年	(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 同左

項目	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<p>5. 繰延資産の処理方法</p> <p>6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準</p> <p>7. 引当金の計上基準</p>	<p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。</p> <p>(3) リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>(4) 長期前払費用 定額法を採用しております。</p> <p>社債発行費 社債の償還までの期間にわたり定額法により償却しております。</p> <p>外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p> <p>(1) 貸倒引当金 売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p>	<p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く） 同左</p> <p>(3) リース資産 同左</p> <p>(4) 長期前払費用 同左</p> <p>社債発行費 同左</p> <p>同左</p> <p>(1) 貸倒引当金 同左</p>

項目	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
8. 収益及び費用の計上基準	<p>(2) 退職給付引当金</p> <p>従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。なお、会計基準変更時差異（573,860千円）については、15年による按分額を費用処理しております。数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>当事業年度より、「「退職給付に係る会計基準」の一部改正（その3）」（企業会計基準第19号 平成20年7月31日）を適用しております。</p> <p>なお、これによる営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響はありません。</p> <p>完成工事高及び完成工事原価の計上基準</p> <p>当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>請負工事に係る収益の計上基準については、従来、請負金額1億円以上かつ工期1年以上の工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を当事業年度より適用し、当事業年度に着手した工事契約から、当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。</p> <p>これにより、当事業年度の売上高は550,521千円増加し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ99,080千円増加しております。</p>	<p>(2) 退職給付引当金</p> <p>同左</p> <hr/> <p>完成工事高及び完成工事原価の計上基準</p> <p>同左</p> <hr/>

項目	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
9. ヘッジ会計の方法	<p>(1) ヘッジ会計の方法 主として繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、為替予約取引については、振当処理の要件を満たしている場合は振当処理を採用しており、金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たしている場合は、特例処理を採用しております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 為替予約・金利スワップ取引 ヘッジ対象 外貨建金銭債務・変動金利の借入金</p> <p>(3) ヘッジ方針 為替変動・金利変動のリスクを回避し、安定した収益を確保するためにデリバティブ取引を行っており、投機的目的とする取引は行っておりません。なお、取引については各決裁権限者を定めた社内規程に基づき決裁をしております、リスク管理についてはすべて経理部門で行っております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。又、金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たしているものに限定することで有効性の評価としております。</p>	<p>(1) ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 同左 ヘッジ対象 同左</p> <p>(3) ヘッジ方針 同左</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 同左</p>
10. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 税抜方式によっております。	消費税等の会計処理 同左

【会計処理方法の変更】

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<p>—————</p>	<p>(資産除去債務に関する会計基準の適用) 当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。 これによる営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響はありません。</p>

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)																																																																																		
<p>※1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物</td> <td style="text-align: right;">1,438,141千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">構築物</td> <td style="text-align: right;">41,603</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">4,020,468</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,500,213</td> </tr> </table> <p>(2) 上記に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1年内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">925,800千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,405,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,330,800</td> </tr> </table> <p>2. 保証債務</p> <p>次のとおり債務保証を行っております。</p> <p>関係会社の仕入債務に対する保証</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">アールシーアイ・セキジ ユ株式会社</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">8,238千円</td> </tr> </table> <p>3. コミットメントライン契約</p> <p>当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行とコミットメントライン契約（特定融資枠契約）を締結しております。この契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">コミットメントラインの総額</td> <td style="text-align: right;">1,000,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">—</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,000,000</td> </tr> </table> <p>4. 偶発債務</p> <p>社債の債務履行引受契約に係る偶発債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第12回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">180,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第13回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">50,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第14回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">100,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第15回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">140,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第16回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">160,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第17回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">90,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第18回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">180,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第19回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">180,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,080,000</td> </tr> </table>	建物	1,438,141千円	構築物	41,603	土地	4,020,468	計	5,500,213	1年内返済予定の長期借入金	925,800千円	長期借入金	1,405,000	計	2,330,800	アールシーアイ・セキジ ユ株式会社	8,238千円	コミットメントラインの総額	1,000,000千円	借入実行残高	—	差引額	1,000,000	㈱ケー・エフ・シー第12回無担保社債	180,000千円	㈱ケー・エフ・シー第13回無担保社債	50,000	㈱ケー・エフ・シー第14回無担保社債	100,000	㈱ケー・エフ・シー第15回無担保社債	140,000	㈱ケー・エフ・シー第16回無担保社債	160,000	㈱ケー・エフ・シー第17回無担保社債	90,000	㈱ケー・エフ・シー第18回無担保社債	180,000	㈱ケー・エフ・シー第19回無担保社債	180,000	合計	1,080,000	<p>※1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物</td> <td style="text-align: right;">1,401,881千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">構築物</td> <td style="text-align: right;">37,065</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">4,020,468</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,459,416</td> </tr> </table> <p>(2) 上記に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">45,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1年内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">705,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,170,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,920,000</td> </tr> </table> <p>2. 保証債務</p> <p>次のとおり債務保証を行っております。</p> <p>関係会社の仕入債務に対する保証</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">アールシーアイ・セキジ ユ株式会社</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">33,193千円</td> </tr> </table> <p>3. コミットメントライン契約</p> <p>当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行とコミットメントライン契約（特定融資枠契約）を締結しております。この契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">コミットメントラインの総額</td> <td style="text-align: right;">1,000,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">100,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">900,000</td> </tr> </table> <p>4. 偶発債務</p> <p>社債の債務履行引受契約に係る偶発債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第12回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">60,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第13回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">30,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第14回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">60,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第15回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">100,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第16回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">120,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第17回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">70,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第18回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">140,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">㈱ケー・エフ・シー第19回無担保社債</td> <td style="text-align: right;">140,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">720,000</td> </tr> </table>	建物	1,401,881千円	構築物	37,065	土地	4,020,468	計	5,459,416	短期借入金	45,000千円	1年内返済予定の長期借入金	705,000	長期借入金	1,170,000	計	1,920,000	アールシーアイ・セキジ ユ株式会社	33,193千円	コミットメントラインの総額	1,000,000千円	借入実行残高	100,000	差引額	900,000	㈱ケー・エフ・シー第12回無担保社債	60,000千円	㈱ケー・エフ・シー第13回無担保社債	30,000	㈱ケー・エフ・シー第14回無担保社債	60,000	㈱ケー・エフ・シー第15回無担保社債	100,000	㈱ケー・エフ・シー第16回無担保社債	120,000	㈱ケー・エフ・シー第17回無担保社債	70,000	㈱ケー・エフ・シー第18回無担保社債	140,000	㈱ケー・エフ・シー第19回無担保社債	140,000	合計	720,000
建物	1,438,141千円																																																																																		
構築物	41,603																																																																																		
土地	4,020,468																																																																																		
計	5,500,213																																																																																		
1年内返済予定の長期借入金	925,800千円																																																																																		
長期借入金	1,405,000																																																																																		
計	2,330,800																																																																																		
アールシーアイ・セキジ ユ株式会社	8,238千円																																																																																		
コミットメントラインの総額	1,000,000千円																																																																																		
借入実行残高	—																																																																																		
差引額	1,000,000																																																																																		
㈱ケー・エフ・シー第12回無担保社債	180,000千円																																																																																		
㈱ケー・エフ・シー第13回無担保社債	50,000																																																																																		
㈱ケー・エフ・シー第14回無担保社債	100,000																																																																																		
㈱ケー・エフ・シー第15回無担保社債	140,000																																																																																		
㈱ケー・エフ・シー第16回無担保社債	160,000																																																																																		
㈱ケー・エフ・シー第17回無担保社債	90,000																																																																																		
㈱ケー・エフ・シー第18回無担保社債	180,000																																																																																		
㈱ケー・エフ・シー第19回無担保社債	180,000																																																																																		
合計	1,080,000																																																																																		
建物	1,401,881千円																																																																																		
構築物	37,065																																																																																		
土地	4,020,468																																																																																		
計	5,459,416																																																																																		
短期借入金	45,000千円																																																																																		
1年内返済予定の長期借入金	705,000																																																																																		
長期借入金	1,170,000																																																																																		
計	1,920,000																																																																																		
アールシーアイ・セキジ ユ株式会社	33,193千円																																																																																		
コミットメントラインの総額	1,000,000千円																																																																																		
借入実行残高	100,000																																																																																		
差引額	900,000																																																																																		
㈱ケー・エフ・シー第12回無担保社債	60,000千円																																																																																		
㈱ケー・エフ・シー第13回無担保社債	30,000																																																																																		
㈱ケー・エフ・シー第14回無担保社債	60,000																																																																																		
㈱ケー・エフ・シー第15回無担保社債	100,000																																																																																		
㈱ケー・エフ・シー第16回無担保社債	120,000																																																																																		
㈱ケー・エフ・シー第17回無担保社債	70,000																																																																																		
㈱ケー・エフ・シー第18回無担保社債	140,000																																																																																		
㈱ケー・エフ・シー第19回無担保社債	140,000																																																																																		
合計	720,000																																																																																		



## (リース取引関係)

項目	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)																																																												
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引	<p>リース資産の内容</p> <p>(ア) 有形固定資産 機械装置及び運搬具、工具器具備品であります。</p> <p>(イ) 無形固定資産 ソフトウェアであります。</p> <p>リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却方法」に記載のとおりであります。</p> <p>なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1" data-bbox="443 853 855 1323"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額</th> <th>減価償却累計額相当額</th> <th>期末残高相当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>千円</td> <td>千円</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>機械及び装置</td> <td>37,548</td> <td>21,903</td> <td>15,645</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>44,347</td> <td>29,696</td> <td>14,651</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td>39,720</td> <td>32,668</td> <td>7,052</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>121,615</td> <td>84,267</td> <td>37,348</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>2. 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額</p> <table border="1" data-bbox="453 1536 879 1603"> <tbody> <tr> <td>1年内</td> <td>20,401千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>16,947</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">37,348</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p>		取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額		千円	千円	千円	機械及び装置	37,548	21,903	15,645	工具、器具及び備品	44,347	29,696	14,651	ソフトウェア	39,720	32,668	7,052	合計	121,615	84,267	37,348	1年内	20,401千円	1年超	16,947	37,348		<p>リース資産の内容</p> <p>(ア) 有形固定資産 同左</p> <p>(イ) 無形固定資産 同左</p> <p>リース資産の減価償却の方法 同左</p> <p>1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1" data-bbox="951 853 1362 1323"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額</th> <th>減価償却累計額相当額</th> <th>期末残高相当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>千円</td> <td>千円</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>機械及び装置</td> <td>37,548</td> <td>29,412</td> <td>8,135</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>30,146</td> <td>21,658</td> <td>8,487</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td>3,240</td> <td>2,916</td> <td>324</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>70,934</td> <td>53,987</td> <td>16,947</td> </tr> </tbody> </table> <p>同左</p> <p>2. 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額</p> <table border="1" data-bbox="960 1536 1386 1603"> <tbody> <tr> <td>1年内</td> <td>11,663千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>5,283</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">16,947</td> </tr> </tbody> </table> <p>同左</p>		取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額		千円	千円	千円	機械及び装置	37,548	29,412	8,135	工具、器具及び備品	30,146	21,658	8,487	ソフトウェア	3,240	2,916	324	合計	70,934	53,987	16,947	1年内	11,663千円	1年超	5,283	16,947	
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額																																																											
	千円	千円	千円																																																											
機械及び装置	37,548	21,903	15,645																																																											
工具、器具及び備品	44,347	29,696	14,651																																																											
ソフトウェア	39,720	32,668	7,052																																																											
合計	121,615	84,267	37,348																																																											
1年内	20,401千円																																																													
1年超	16,947																																																													
37,348																																																														
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額																																																											
	千円	千円	千円																																																											
機械及び装置	37,548	29,412	8,135																																																											
工具、器具及び備品	30,146	21,658	8,487																																																											
ソフトウェア	3,240	2,916	324																																																											
合計	70,934	53,987	16,947																																																											
1年内	11,663千円																																																													
1年超	5,283																																																													
16,947																																																														

項目	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
	3. 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額及び減価償却費相当額 支払リース料                    25,625千円 減価償却費相当額              25,625 4. 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。	3. 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額及び減価償却費相当額 支払リース料                    20,401千円 減価償却費相当額              20,401 4. 減価償却費相当額の算定方法 同左

(有価証券関係)

前事業年度 (平成22年3月31日現在)

子会社株式 (貸借対照表計上額 218,718千円) は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度 (平成23年3月31日現在)

子会社株式 (貸借対照表計上額 218,718千円) は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)																																																																																														
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">4,449千円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">115,124</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">48,330</td></tr> <tr><td>未払賞与</td><td style="text-align: right;">66,469</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">28,946</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権評価損</td><td style="text-align: right;">12,383</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">26,762</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">7,302</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">309,768</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">△47,831</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">261,936</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">△52,672</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">△52,672</td></tr> <tr><td>繰延税金資産（負債）の純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">209,264</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産—繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">131,419千円</td></tr> <tr><td>固定資産—繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">77,845</td></tr> </table> <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.6%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">2.6</td></tr> <tr><td>永久に益金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">△0.1</td></tr> <tr><td>住民税均等割等</td><td style="text-align: right;">0.2</td></tr> <tr><td>評価性引当額の増加</td><td style="text-align: right;">0.2</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0.3</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">43.8</td></tr> </table>	役員退職慰労引当金	4,449千円	退職給付引当金	115,124	未払事業税	48,330	未払賞与	66,469	投資有価証券評価損	28,946	ゴルフ会員権評価損	12,383	貸倒引当金	26,762	その他	7,302	繰延税金資産小計	309,768	評価性引当額	△47,831	繰延税金資産合計	261,936	その他有価証券評価差額金	△52,672	繰延税金負債合計	△52,672	繰延税金資産（負債）の純額	209,264	流動資産—繰延税金資産	131,419千円	固定資産—繰延税金資産	77,845	法定実効税率	40.6%	(調整)		永久に損金に算入されない項目	2.6	永久に益金に算入されない項目	△0.1	住民税均等割等	0.2	評価性引当額の増加	0.2	その他	0.3	税効果会計適用後の法人税等の負担率	43.8	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">4,449千円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">81,789</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">2,179</td></tr> <tr><td>未払賞与</td><td style="text-align: right;">40,396</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">28,946</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権評価損</td><td style="text-align: right;">12,383</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">29,945</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">5,703</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">205,792</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">△47,912</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">157,879</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">△45,232</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">△45,232</td></tr> <tr><td>繰延税金資産（負債）の純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">112,646</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産—繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">67,199千円</td></tr> <tr><td>固定資産—繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">45,447</td></tr> </table> <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.6%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">3.1</td></tr> <tr><td>永久に益金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">△0.2</td></tr> <tr><td>住民税均等割等</td><td style="text-align: right;">0.4</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">1.5</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">45.4</td></tr> </table>	役員退職慰労引当金	4,449千円	退職給付引当金	81,789	未払事業税	2,179	未払賞与	40,396	投資有価証券評価損	28,946	ゴルフ会員権評価損	12,383	貸倒引当金	29,945	その他	5,703	繰延税金資産小計	205,792	評価性引当額	△47,912	繰延税金資産合計	157,879	その他有価証券評価差額金	△45,232	繰延税金負債合計	△45,232	繰延税金資産（負債）の純額	112,646	流動資産—繰延税金資産	67,199千円	固定資産—繰延税金資産	45,447	法定実効税率	40.6%	(調整)		永久に損金に算入されない項目	3.1	永久に益金に算入されない項目	△0.2	住民税均等割等	0.4	その他	1.5	税効果会計適用後の法人税等の負担率	45.4
役員退職慰労引当金	4,449千円																																																																																														
退職給付引当金	115,124																																																																																														
未払事業税	48,330																																																																																														
未払賞与	66,469																																																																																														
投資有価証券評価損	28,946																																																																																														
ゴルフ会員権評価損	12,383																																																																																														
貸倒引当金	26,762																																																																																														
その他	7,302																																																																																														
繰延税金資産小計	309,768																																																																																														
評価性引当額	△47,831																																																																																														
繰延税金資産合計	261,936																																																																																														
その他有価証券評価差額金	△52,672																																																																																														
繰延税金負債合計	△52,672																																																																																														
繰延税金資産（負債）の純額	209,264																																																																																														
流動資産—繰延税金資産	131,419千円																																																																																														
固定資産—繰延税金資産	77,845																																																																																														
法定実効税率	40.6%																																																																																														
(調整)																																																																																															
永久に損金に算入されない項目	2.6																																																																																														
永久に益金に算入されない項目	△0.1																																																																																														
住民税均等割等	0.2																																																																																														
評価性引当額の増加	0.2																																																																																														
その他	0.3																																																																																														
税効果会計適用後の法人税等の負担率	43.8																																																																																														
役員退職慰労引当金	4,449千円																																																																																														
退職給付引当金	81,789																																																																																														
未払事業税	2,179																																																																																														
未払賞与	40,396																																																																																														
投資有価証券評価損	28,946																																																																																														
ゴルフ会員権評価損	12,383																																																																																														
貸倒引当金	29,945																																																																																														
その他	5,703																																																																																														
繰延税金資産小計	205,792																																																																																														
評価性引当額	△47,912																																																																																														
繰延税金資産合計	157,879																																																																																														
その他有価証券評価差額金	△45,232																																																																																														
繰延税金負債合計	△45,232																																																																																														
繰延税金資産（負債）の純額	112,646																																																																																														
流動資産—繰延税金資産	67,199千円																																																																																														
固定資産—繰延税金資産	45,447																																																																																														
法定実効税率	40.6%																																																																																														
(調整)																																																																																															
永久に損金に算入されない項目	3.1																																																																																														
永久に益金に算入されない項目	△0.2																																																																																														
住民税均等割等	0.4																																																																																														
その他	1.5																																																																																														
税効果会計適用後の法人税等の負担率	45.4																																																																																														

(資産除去債務関係)

当事業年度末(平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1株当たり純資産額	828円33銭	894円42銭
1株当たり当期純利益金額	137円40銭	91円52銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載していません。	同左

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
当期純利益(千円)	916,408	674,692
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	916,408	674,692
期中平均株式数(株)	6,669,854	7,372,070

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## ④【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

## 【株式】

投資有価証券	その他有価証券	銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)
		電気化学工業株式会社	740,000	303,400
積水樹脂株式会社	128,000	110,080		
ダイダン株式会社	127,000	63,627		
象印マホービン株式会社	219,000	48,399		
株式会社南都銀行	89,000	35,600		
S E Cカーボン株式会社	69,000	30,153		
株式会社高松コンストラクショングループ	21,800	29,299		
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	66,200	25,420		
大阪機工株式会社	222,000	24,420		
日本電子材料株式会社	39,312	20,599		
株式会社池田泉州ホールディングス	170,200	19,232		
神島化学工業株式会社	80,000	19,200		
株式会社りそなホールディングス	46,600	18,453		
株式会社滋賀銀行	42,000	18,354		
那須電機鉄工株式会社	46,000	16,928		
日本乾溜工業株式会社	76,000	12,464		
その他10銘柄	243,931	22,987		
計	2,426,043	818,617		

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 却累計額又は 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	2,692,018	11,133	2,370	2,700,781	1,138,159	59,073	1,562,621
構築物	169,850	—	—	169,850	132,784	4,538	37,065
機械及び装置	850,288	163,650	97,426	916,511	735,914	31,694	180,597
車輛運搬具	29,235	—	—	29,235	23,498	9,525	5,736
工具、器具及び備品	101,359	11,521	15,561	97,319	78,850	11,499	18,468
土地	4,088,258	—	—	4,088,258	—	—	4,088,258
リース資産	155,747	60,812	—	216,559	82,095	41,768	134,464
有形固定資産計	8,086,757	247,116	115,357	8,218,516	2,191,303	158,099	6,027,212
無形固定資産							
ソフトウェア	38,667	79,417	—	118,085	24,111	11,240	93,973
リース資産	560	—	—	560	357	137	203
その他	23,516	—	—	23,516	10,015	1,102	13,500
無形固定資産計	62,744	79,417	—	142,162	34,484	12,480	107,678
長期前払費用	5,286	—	—	5,286	5,286	967	—
繰延資産							
社債発行費	5,928	11,274	—	17,202	2,202	2,104	14,999
繰延資産計	5,928	11,274	—	17,202	2,202	2,104	14,999

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	204,736	32,702	27,215	49,925	160,297

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

## ① 流動資産

## イ 現金及び預金

区分		金額 (千円)
現金		8,936
預金の種類	当座預金	1,428,930
	普通預金	152,984
	別段預金	658
	定期預金	310,000
	小計	1,892,574
合計		1,901,510

## ロ 受取手形

## (イ)相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
株式会社マシノ	182,044
株式会社東亜エージェンシー	106,187
ハザマ興業株式会社	103,120
株式会社ケー・エフ・シーマスディック	101,467
株式会社熊谷組	84,431
その他	1,548,739
合計	2,125,991

## (ロ)期日別内訳

期日別	金額 (千円)
平成23年 4月	643,532
5月	560,795
6月	399,836
7月	427,579
8月	94,246
9月以降	—
合計	2,125,991

ハ 売掛金  
(イ)相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
清水建設株式会社	372,196
GTSコーポレーション株式会社	186,900
佐藤工業株式会社	134,892
光が丘興産株式会社	119,571
株式会社クズハ	113,059
その他	1,792,932
合計	2,719,552

(ロ)売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	次期繰越高 (千円)	回収率 (%)	滞留期間 (日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} \div \frac{(B)}{365}$
2,487,447	12,181,598	11,949,493	2,719,552	81.5	78.0

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記発生額には消費税等が含まれております。

ニ 完成工事未収入金  
(イ)相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
中日本高速道路株式会社	372,899
東日本高速道路株式会社	191,750
洋伸建設株式会社	127,816
前田建設工業株式会社	69,856
大成建設株式会社	69,418
その他	802,257
合計	1,633,998

(ロ)完成工事未収入金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	次期繰越高 (千円)	回収率 (%)	滞留期間 (日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} \div \frac{(B)}{365}$
2,422,234	11,102,084	11,890,320	1,633,998	87.9	66.7

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記発生額には消費税等が含まれております。

## ホ 商品

品目	金額 (千円)
あと施工アンカー	266,884
その他建設資材	39,385
ロックボルト及び附属品	615,545
その他トンネル掘削資材	47,040
合計	968,855

## へ 未成工事支出金

前期繰越高 (千円)	当期支出額 (千円)	完成工事原価への振替額 (千円)	当期末残高 (千円)
683,236	8,239,645	8,623,018	299,863

期末残高の内訳は次のとおりであります。

材料費	165,219	千円
労務費	—	千円
外注費	28,187	千円
経費	106,457	千円
(うち人件費)	(30,222)	千円
計	299,863	千円

(注) 当社の工事は全て外注に出しておりますので、労務費は発生しておりません。

## ② 流動負債

## イ 支払手形

## (イ) 相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
日油技研工業株式会社	568,715
株式会社トーキンオール	360,788
積水樹脂株式会社	269,599
グラウト物産株式会社	180,095
三井物産スチール株式会社	154,824
その他	2,872,556
合計	4,406,580

## (ロ)期日別内訳

期日別	金額 (千円)
平成23年 4月	961,778
5月	897,716
6月	844,542
7月	843,861
8月	858,681
9月以降	—
合計	4,406,580

## ロ 買掛金

相手先	金額 (千円)
株式会社中外精工	105,625
日油技研工業株式会社	87,865
株式会社河戸製作所	62,288
永井工業株式会社	51,684
塚本総業株式会社	41,459
その他	542,543
合計	891,468

## ハ 工事未払金

相手先	金額 (千円)
積水樹脂株式会社	145,614
エコシビックエンジ株式会社	59,052
日油技研工業株式会社	30,203
株式会社エーアンドエーマテリアル	24,325
日本ロードテック株式会社	19,085
その他	453,362
合計	731,643

ニ 1年内返済予定の長期借入金

相手先	金額 (千円)
株式会社三菱東京UFJ銀行	705,000
株式会社南都銀行	198,000
株式会社滋賀銀行	195,000
三菱UFJ信託銀行株式会社	150,200
株式会社みずほ銀行	120,000
その他	159,060
合計	1,527,260

ホ 未成工事受入金

前期繰越高 (千円)	当期受入額 (千円)	完成工事高への振替額 (千円)	当期末残高 (千円)
384,956	11,170,375	11,510,179	45,152

③ 固定負債

イ 長期借入金

相手先	金額 (千円)
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,170,000
株式会社みずほ銀行	210,000
株式会社南都銀行	118,900
三菱UFJ信託銀行株式会社	100,800
株式会社滋賀銀行	75,000
合計	1,674,700

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日 9月30日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り 取扱場所  株主名簿管理人  取次所 買取手数料	<p>(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部</p> <p>(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社</p> <p>以下 —————</p> <p>以下の算式により1単元当たりの金額を算定し、これを買取った単元未満株式の 数で按分した金額 (算式) 1株当たりの買取価格に1単元の株式数を乗じた合計金額のうち 100万円以下の金額につき 1.150% 100万円を超える金額につき 0.900% (円未満の端数を生じた場合には切捨てる。) ただし、1単元当たりの算定金額が2,500円に満たない場合には、 2,500円とする。</p>
公告掲載方法	<p>当会社の公告方法は、電子公告とします。但し、事故その他やむを得ない事由 によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞社に 掲載して行います。 電子公告のURL <a href="http://www.kfc-net.co.jp/">http://www.kfc-net.co.jp/</a></p>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 1. 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利並びに株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第46期（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）平成22年6月21日近畿財務局長に提出

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成22年6月21日近畿財務局長に提出

#### (3) 四半期報告書及び確認書

（第47期第1四半期）（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）平成22年8月6日近畿財務局長に提出

（第47期第2四半期）（自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）平成22年11月5日近畿財務局長に提出

（第47期第3四半期）（自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日）平成23年2月4日近畿財務局長に提出

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書

平成22年6月21日近畿財務局長に提出

#### (5) 自己株券買付状況報告書

報告期間（自 平成22年6月1日 至 平成22年6月17日）平成22年7月2日近畿財務局長に提出

報告期間（自 平成22年6月21日 至 平成22年6月30日）平成22年7月6日近畿財務局長に提出

報告期間（自 平成22年7月1日 至 平成22年7月31日）平成22年8月6日近畿財務局長に提出

報告期間（自 平成22年8月1日 至 平成22年8月31日）平成22年9月6日近畿財務局長に提出

報告期間（自 平成22年9月1日 至 平成22年9月30日）平成22年10月6日近畿財務局長に提出

報告期間（自 平成22年10月1日 至 平成22年10月31日）平成22年11月5日近畿財務局長に提出

報告期間（自 平成22年11月1日 至 平成22年11月30日）平成22年12月6日近畿財務局長に提出

報告期間（自 平成22年12月1日 至 平成22年12月31日）平成23年1月7日近畿財務局長に提出

報告期間（自 平成23年1月1日 至 平成23年1月31日）平成23年2月7日近畿財務局長に提出

報告期間（自 平成23年2月1日 至 平成23年2月28日）平成23年3月7日近畿財務局長に提出

報告期間（自 平成23年3月1日 至 平成23年3月31日）平成23年4月7日近畿財務局長に提出

報告期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年4月30日）平成23年5月11日近畿財務局長に提出

報告期間（自 平成23年5月1日 至 平成23年5月31日）平成23年6月7日近畿財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月21日

株式会社ケー・エフ・シー

取締役会 御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 柳 承煥 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高木 勇 ㊞

## <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ケー・エフ・シーの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ケー・エフ・シー及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 追記情報

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項に記載されているとおり、会社は、請負工事に係る収益の計上基準については、従来、請負金額1億円以上かつ工期1年以上の工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用していたが、「工事契約に係る会計基準」及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」を当連結会計年度より適用し、当連結会計年度に着手した工事契約から、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用している。

## <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ケー・エフ・シーの平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社ケー・エフ・シーが平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年 6月20日

株式会社ケー・エフ・シー

取締役会 御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 柳 承煥 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 宮内 威 ㊞

## <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ケー・エフ・シーの平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ケー・エフ・シー及び連結子会社の平成23年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ケー・エフ・シーの平成23年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社ケー・エフ・シーが平成23年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成22年6月21日

株式会社ケー・エフ・シー

取締役会 御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 柳 承煥 (印)

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高木 勇 (印)

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ケー・エフ・シーの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第46期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ケー・エフ・シーの平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 追記情報

重要な会計方針に記載されているとおり、会社は、請負工事に係る収益の計上基準については、従来、請負金額1億円以上かつ工期1年以上の工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用していたが、「工事契約に係る会計基準」及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」を当事業年度より適用し、当事業年度に着手した工事契約から、当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成23年6月20日

株式会社ケー・エフ・シー

取締役会 御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 柳 承煥 (印)  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 宮内 威 (印)  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ケー・エフ・シーの平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第47期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ケー・エフ・シーの平成23年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成23年6月20日
【会社名】	株式会社ケー・エフ・シー
【英訳名】	K F C, L t d.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 村上 俊介
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	大阪市北区西天満3丁目2番17号
【縦覧に供する場所】	株式会社ケー・エフ・シー東京本社 (東京都江東区青海2丁目4番32号 タイム24ビル) 株式会社ケー・エフ・シー横浜営業所 (横浜市都筑区大丸8番4号 都筑岩澤ビル) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役村上俊介は、当社の第47期（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。

## 【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成23年6月20日
【会社名】	株式会社ケー・エフ・シー
【英訳名】	K F C, L t d.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 村上 俊介
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	大阪市北区西天満3丁目2番17号
【縦覧に供する場所】	株式会社ケー・エフ・シー東京本社 (東京都江東区青海2丁目4番32号 タイム24ビル) 株式会社ケー・エフ・シー横浜営業所 (横浜市都筑区大丸8番4号 都筑岩澤ビル) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

## 1【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長村上俊介は、当社及び連結子会社（以下、「当社グループ」という）の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

当社は、当事業年度の末日である平成23年3月31日を基準日とし、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、当社グループの財務報告に係る内部統制の評価を実施しました。

評価にあたっては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価の対象とする業務プロセスを選定しております。

当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲については、当社グループの財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しました。

財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社グループを対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、連結会社間取引消去後の連結売上高を指標として、概ねその2/3に達するまでの事業拠点を「重要な事業拠点」として選定しました。

選定した重要な事業拠点においては、事業目的に大きく関わる勘定科目として「売上高」、「売掛金・完成工事未収入金」及び「棚卸資産」に至る業務プロセスを評価の対象としました。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

## 3【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当社は、平成23年3月31日現在における当社グループの財務報告に係る内部統制は有効であると判断しました。

## 4【付記事項】

該当事項はありません。

## 5【特記事項】

該当事項はありません。